

令和6年度(2024年度)用

小学校算数科用

---

---

「新編 新しい算数」  
年間指導計画作成資料  
細案  
【2年】

---

---

令和6年(2024年)3月版

※単元ごとの配当時数、主な学習活動、評価規準などは、今後変更になる可能性があります。ご了承ください。

東京書籍

本資料は、令和6年度用教科書「新編 新しい算数」に基づいてご指導いただく場合の学習指導計画案を示したものです。各学年とも、「単元名」、「教科書のページ」、「配当時数」、「活動時期（学習時期）」、「学習指導要領の内容」、「単元の目標」、「単元の観点別評価規準」を示した後、表形式で「時（時間の区切り）」、「目標」、「学習活動」、「評価の観点と方法の例」を示しています。

### 【本資料における活動時期設定の方針】

年間35週（1学年は34週）を基準として、月ごとの週数を暫定的に以下のように定めた上で設定しています。しかし、週数は地区や学校の状況や考え方によって様々であることから、本資料に示す「活動時期」は一応の目安とお考えいただき、適宜修正してください。

なお、各学年とも、教科書の指導計画時数は年間標準指導時数の9割前後とし、残りを予備時数とし、実態に応じて柔軟に活用していただけるようにしています。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	年間標準指導時数
週数（1学年）	2	3	4	2	0	4	4	4	2	3	4	2	136
週数（2学年以上）	3	3	4	2	0	4	4	4	2	3	4	2	175

### 【本資料における目標、評価規準設定の方針】

あくまで本資料における方針であるため、1つの参考とお考えください。

#### ● 「単元の目標」

資質・能力は単元の学習後には渾然一体となって身につくものとの考えから、学習指導要領に示された内容のまとめ（例：第1学年 A 数と計算（1）数の構成と表し方）等を基に単元の内容を俯瞰し、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点に関する内容を一文にまとめて示しています。

#### ● 「単元の観点別評価規準」

「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の観点ごとに、単元の学習後に全体的な視点から評価する際に活用するものであると位置づけ、単元の学習内容に即して一定程度具体的に示しています。

#### ● 「評価の観点と方法の例」

算数科の教科特性（毎時間少しずつでも差異がある内容を学習することが多い）から、毎時の目標に即して具体的に示しています。

ただし、これらすべてを、全児童の学習状況を記録するために活用することは現実的ではありません。すなわち、本資料に示した評価規準の例を活用する場合、それぞれを記録に生かす評価規準とするか、今後の指導に生かす評価規準とするかを、指導者が判断した上で活用することを想定しています。

毎時の評価規準	
記録に生かす 評価規準の例	指導に生かす 評価規準の例

なお、記録に生かす評価機会の例として、右記のように評価の観点名に「アミ」をしいていますので、1つの手がかりとしてご活用ください。

【思判表】比例の関係を  
使った体積の求め方を考  
え、説明している。【観察・  
ノート】

#### ● 記録に生かす評価機会設定の方針

単元の目標や学習内容、指導者のねらいなどにより、どのタイミングで記録に生かす評価機会を設定するかは異なります。したがって、一概に機会設定の方針を定めることは困難ですが、以下、本資料における大まかな方針を示しておきます。

##### ・「知識・技能」

教科書単元末の練習問題に取り組む際など、単元の終末に記録する。

##### ・「思考・判断・表現」および「主体的に学習に取り組む態度」

数学的な見方・考え方を単元を通して繰り返し働かせていく、という算数科の学習の特性から、これら2観点については単元前半から後半に向けて徐々に高まることが考えられるため、小単元や単元の後半の時間、および単元の終末に記録する。

単元名	学びの とびら			教科書の ページ	上 p.2～7
配当時数	1 時間	活動時期	4 月中旬	学習指導要 領の内容	第 1 学年の内容

時	目標	学習活動
1	<p>・算数科の学び方、問題解決の方法やノートづくり方を共有したり、教科書の使い方を確認したりして、子どもたちが自ら教科書を有効に活用して、主体的、対話的で深い学びを実現できるようにする。</p> <p style="text-align: right;">上p.2～7</p>	<p>①「もくじ」(5分) 表紙裏～p.1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「前の学習」や「後の学習」を見て、算数の学習はこれまでの学習を基に積み重ねられていること、以後の学習へつながっていることに気づく。</li> <li>・表紙裏ページを見て、デジタルコンテンツが設定されていることやその使用方法、使用上の留意点を確認する。</li> </ul> <p>②「“新しい算数”をつかって学しゅうをすすめよう！」(3分) p.2～3</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書の構成や記号の意味について調べたいときには、随時本ページを見るとよいことを確認する。</li> <li>・巻末にはオプション教材集「新しい算数 プラス」が設定されていること、その中の「ふりかえりコーナー」(知識の振り返り)、「ほじゅうのもんだい」(補充問題)、「おもしろもんだいにチャレンジ」(数学の世界での発展)があることを知り、適宜活用するとよいことを確認する。</li> </ul> <p>③「授業ページ」(30分) p.4～5</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前学年までの学習で解決できる問題について、数学的な見方・考え方を働かせた数学的活動を実際に遂行することを通して、算数科における学び方や問題解決の方法を確認する。</li> </ul> <p>④「算数マイノートをつくらう」(7分) p.6～7</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「授業ページ」におけるノートの例を参考にしながら、ノートづくり方を確認する。</li> </ul> <p>※「指導者・保護者のみなさまへ」について これらの記述はいずれも教科書の編集意図に加え、子どもたちが学習習慣(特に家庭での自学自習)を身につけるためには家庭での理解・協力が不可欠であると考え、掲載したものである。保護者の方々とも連携を図りながら、教科書を有効に活用していただきたい。</p>

単元名	1. わかりやすく あらわそう [グラフと ひょう]		教科書のページ	上 p.8~11
配当時数	3 時間	活動時期	4 月中旬	学習指導要領の内容 D(1)ア(ア)、イ(ア)

単元の目標		簡単なグラフや表について理解し、データを整理する観点を定め、簡単なグラフや表を通じて特徴をとらえ、考察する力を養うとともに、グラフや表を用いて数学的に表現・処理したことを振り返り、今後の生活や学習に活用しようとする態度を養う。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	身の回りにある数量を分類整理し、簡単なグラフや表を用いて表したり読み取ったりすることができる。
	思考・判断・表現	データを整理する観点に着目し、身の回りの事象についてグラフや表を用いて考察している。
	主体的に学習に取り組む態度	身の回りの事象に関心を持ち、グラフや表を用いて数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとしている。

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
(1) グラフと ひょう 上p.8~11 3 時間			
1	[プロローグ]  上p.8	①p.8の問題場面を提示し、クラスの間などもっと仲よくなるにはどうすればよいかを話し合うことを通して、身の回りにある数量を分類整理して表すという単元の課題を設定する。 (所要時間は 10 分程度)	
	・身の回りにある数量を、整理する観点を決めて分類整理し、グラフや一次元表に表すことができる。  上p.9	①絵を見て、みんなでしたい遊びごとにグラフにまとめる。 ②みんなでしたい遊びの人数を数え、表にまとめる。	<b>【知技】</b> 身の回りにある数量を、整理する観点を決めて分類整理し、グラフや表に表すことができる。 <b>【観察・ノート】</b>
2	・データを整理する観点に着目し、グラフや一次元表を読み取り、そのよさに気づき説明することができる。  上p.10	①グラフや表を読み、そのよさについて話し合う。 ②グラフや表を見て、みんなでしたい遊びについて話し合う。	<b>【思判表】</b> データを整理する観点に着目し、身の回りの事象についてグラフや表を用いて考察している。 <b>【観察・ノート】</b>
3	・複数のグラフからデータを読み取り、比較して身の回りの事象を考察し、活用することができる。  上p.11	①雨が降った場合のことを考えた、2回目の結果のグラフを見て、1回目と2回目のグラフを比べる。 ②グラフを比較して考えたことを話し合い、みんなでしたい遊びを考える。	<b>【知技】</b> 複数のグラフを読み取り、比較することができる。 <b>【観察・ノート】</b> <b>【態度】</b> グラフや表を用いて数学的に表現・処理した過程や結果を振り返り、そのよさを感じている。 <b>【観察・ノート】</b>

単元名	2. たし算のしかたを 考えよう [たし算の ひっ算]			教科書の ページ	上 p.12~23、123
配当時数	8 時間	活動時期	4 月中旬～ 5 月上旬	学習指導要 領の内容	A(2)ア(ア)(ウ)、イ (ア) 内容の取扱い(3)

単元の目標		2 位数の加法の筆算の仕方について理解し、筆算の仕方を図や式を用いて考える力を養うとともに、計算方法を数学的表現を用いて考えた過程を振り返り、そのよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとする態度を養う。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	2 位数の加法計算が 1 位数などの基本的な計算を基にしてできることを理解し、その計算が確実にできるとともに、その筆算の仕方について理解している。
	思考・判断・表現	数の仕組みに着目し、2 位数の加法計算の仕方を、図や式などを用いて考え表現している。
	主体的に学習に取り組む態度	2 位数の加法の筆算の仕方について、図や式などを用いて考えた過程や結果を振り返り、数理的な処理のよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとしている。

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
(1) たし算(1) 上p.12~16 3 時間			
1	[プロローグ]  上p.12	①p.12 の写真を提示し、買い物で代金を求める場面を想定した話し合いを通して、既習の加法計算を振り返るとともに、2 位数どうしの加法計算の仕方を考えるという単元の課題を設定する。 (所要時間は 10 分程度)	
2	・ 2 位数の加法計算の仕方を考えることを通して、加法の筆算の仕方を理解する。 上p.13~15	①問題場面から数量の関係をとらえ、立式する。 ②35+12 の計算の仕方を考える。 ③各自の方法を発表し、検討する。	[ <b>知技</b> ]2 位数+2 位数=2 位数(繰り上がりなし)の筆算の仕方を理解し、答えを求めることができる。 [ <b>観察・ノート</b> ] [ <b>思判表</b> ]2 位数の加法計算の仕方を、ブロックや式などを用いて数の仕組み(十進位取り記数法)に着目して考え、説明している。 [ <b>観察・ノート</b> ] [ <b>態度</b> ]既習の加法計算の学習を基に、2 位数の加法計算の仕方を考えようとしている。 [ <b>観察・ノート</b> ]
3	・ 2 位数+1 位数=2 位数(繰り上がりなし、欠位、空位あり)の筆算の仕方を理解し、その計算ができる。 上p.16	①32+4 の筆算の仕方を考える。 ②43+5、7+52、3+70 の筆算の仕方を考える。 ③練習問題に取り組む。	[ <b>知技</b> ]筆算形式による 2 位数+1 位数=2 位数(繰り上がりなし、欠位、空位あり)の加法計算の仕方を理解し、答えを求めることができる。 [ <b>観察・ノート</b> ]

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
<b>(2) たし算(2) 上p.17~19 3時間</b>			
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2位数+2位数=2位数(繰り上がりあり)の筆算の仕方を、数の仕組みに着目して考え、説明することができる。</li> </ul> <p style="text-align: right;">上p.17~18</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①問題場面から数量の関係をとらえ、立式する。</li> <li>②35+29の計算の仕方を考える。</li> </ul>	<p><b>[知技]</b>筆算形式による2位数+2位数=2位数(繰り上がりあり)の加法計算の仕方を理解し、答えを求めることができる。</p> <p><b>【観察・ノート】</b>  <b>[思判表]</b>繰り上がりのある場合の加法の筆算の仕方を、式や言葉などを用いて数の仕組み(十進位取り記数法)に着目して考え、説明している。<b>【観察・ノート】</b></p>
5		<ul style="list-style-type: none"> <li>①35+29の筆算の仕方を考え、まとめる。</li> <li>②練習問題に取り組む。</li> </ul>	
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2位数+1、2位数=2位数(繰り上がりあり、答えの一の位に空位あり、欠位あり)の筆算の仕方を理解し、その計算ができる。</li> </ul> <p style="text-align: right;">上p.19</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①28+32、28+6、3+87の筆算の仕方を考える。</li> <li>②練習問題に取り組む。</li> </ul>	<p><b>[知技]</b>筆算形式による2位数+1、2位数=2位数(繰り上がりあり、答えの一の位に空位あり、欠位あり)の加法計算の仕方を理解し、答えを求めることができる。<b>【観察・ノート】</b></p>
<b>(3) たし算の きまり 上p.20~21 1時間</b>			
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・加法について交換法則が成り立つことを理解する。</li> </ul> <p style="text-align: right;">上p.20~21</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①問題場面から数量の関係をとらえ、テープ図を完成させる。</li> <li>②テープ図を基に立式する。</li> <li>③17+24=41と24+17=41の2つの式を比べて、気づいたことを発表する。</li> <li>④加法計算をして、交換法則を用いて答えを確かめる。</li> </ul>	<p><b>[知技]</b>加法について交換法則が成り立つことを理解している。<b>【観察・ノート】</b></p>
<b>まとめ 上p.22~23、123 1時間</b>			
8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返り価値づける。</li> </ul> <p style="text-align: right;">上p.22~23</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①「たしかめよう」に取り組む。</li> <li>②「つないでいこう 算数の目」に取り組む。</li> </ul>	<p><b>[知技]</b>基本的な問題を解決することができる。<b>【観察・ノート】</b>  <b>[思判表]</b>数学的な着眼点と考察の対象を明らかにしながら、単元の学習を整理している。<b>【観察・ノート】</b>  <b>[態度]</b>単元の学習を振り返り、価値づけたり、今後の学習に生かそうとしていたりしている。<b>【観察・ノート】</b></p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>【発展】</b>巻末p.123の「おもしろ問題にチャレンジ」に取り組み、単元の学習内容を基に加法の筆算の仕方についての理解を深める。</li> </ul>			

単元名	3. ひき算のしかたを 考えよう [ひき算の ひっ算]		教科書の ページ	上 p.24~35、123
配当時数	8 時間	活動時期	5 月上旬~下旬	学習指導要 領の内容
				A(2)ア(ア)(ウ)(エ)、 イ(ア)

単元の目標		2 位数の減法の筆算の仕方について理解し、筆算の仕方を図や式を用いて考える力を養うとともに、計算方法を数学的表現を用いて考えた過程を振り返り、そのよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとする態度を養う。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	2 位数の減法計算が 1 位数などの基本的な計算を基にしてできることを理解し、その計算が確実にできるとともに、その筆算の仕方について理解している。
	思考・判断・表現	数の仕組みに着目し、2 位数の減法計算の仕方を、図や式などを用いて考え表現している。
	主体的に学習に取り組む態度	2 位数の減法の筆算の仕方について、図や式などを用いて考えた過程や結果を振り返り、数理的な処理のよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとしている。

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
(1) ひき算(1) 上p.24~28 3 時間			
1	[プロローグ]  上p.24	①p.24 の写真を提示し、買い物で残金を求める場面を想定した話し合いを通して、既習の減法計算を振り返るとともに、2 位数ど うしの減法計算の仕方を考えるという単元の課題を設定する。 (所要時間は 10 分程度)	
	・ 2 位数の減法計算の仕方を考えることを通して、減法の筆算の仕方を理解する。 上p.25~27	①問題場面から数量の関係をとらえ、立式する。 ②47-15 の計算の仕方を考える。 ③各自の方法を発表し、検討する。	[ <b>知技</b> ]2 位数-2 位数(繰り下がりがなし)の筆算の仕方を理解し、答えを求めることができる。【 <b>観察・ノート</b> 】
2		①筆算の仕方をまとめる。 ②練習問題に取り組む。	[ <b>思判表</b> ]2 位数の減法計算の仕方を、ブロックや式などを用いて数の仕組み(十進位取り記数法)に着目して考え、説明している。【 <b>観察・ノート</b> 】 [ <b>態度</b> ]既習の減法計算の学習を基に、2 位数の減法計算の仕方を考えようとしている。【 <b>観察・ノート</b> 】
3	・ 2 位数-1、2 位数(繰り下がりがなし、空位、欠位あり)の筆算の仕方を理解し、その計算ができる。 上p.28	①36-26、36-32、36-2 の筆算の仕方を考える。 ②練習問題に取り組む。	[ <b>知技</b> ]筆算形式による 2 位数-1、2 位数(繰り下がりがなし、空位、欠位あり)の減法計算の仕方を理解し、答えを求めることができる。【 <b>観察・ノート</b> 】

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
<b>(2) ひき算(2) 上p.29～31 3時間</b>			
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2位数-2位数(繰り下がりあり)の筆算の仕方を、数の仕組みに着目して考え、説明することができる。</li> </ul> <p style="text-align: right;">上p.29～30</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①問題場面から数量の関係をとりえ、立式する。</li> <li>②47-18の計算の仕方を考える。</li> </ul>	<p><b>[知技]</b>筆算形式による2位数-2位数(繰り下がりあり)の減法計算の仕方を理解し、答えを求めることができる。<b>【観察・ノート】</b></p> <p><b>[思判表]</b>繰り下がりのある場合の減法の筆算の仕方を、式や言葉などを用いて数の仕組み(十進位取り記数法)に着目して考え、説明している。<b>【観察・ノート】</b></p>
5		<ul style="list-style-type: none"> <li>①47-18の筆算の仕方を考え、まとめる。</li> <li>②練習問題に取り組む。</li> </ul>	
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2位数-1、2位数(繰り下がりあり、空位、欠位あり)の筆算の仕方を理解し、その計算ができる。</li> </ul> <p style="text-align: right;">上p.31</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①40-18、45-38、45-8、40-8の筆算の仕方を考える。</li> <li>②練習問題に取り組む。</li> </ul>	<p><b>[知技]</b>筆算形式による2位数-1、2位数(繰り下がりあり、空位、欠位あり)の減法計算の仕方を理解し、答えを求めることができる。<b>【観察・ノート】</b></p>
<b>(3) ひき算の きまり 上p.32～33 1時間</b>			
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・減法と加法の関係を理解し、答えの確かめに用いることができる。</li> </ul> <p style="text-align: right;">上p.32～33</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①問題場面から数量の関係をとりえ、テープ図を完成させる。</li> <li>②テープ図を基に立式し、答えを求める。</li> <li>③41-15の答え26に減数の15をたした結果を被減数と比べる。</li> <li>④減法計算をして、減法と加法の関係をj用いて答えを確かめる。</li> </ul>	<p><b>[知技]</b>減法と加法の関係をj用いると、減法の答えを加法で確かめられることを理解し、答えの確かめに用いることができる。<b>【観察・ノート】</b></p>
<b>まとめ 上p.34～35、123 1時間</b>			
8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返り価値づける。</li> </ul> <p style="text-align: right;">上p.34～35</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①「たしかめよう」に取り組む。</li> <li>②「つないでいこう 算数の目」に取り組む。</li> </ul>	<p><b>[知技]</b>基本的な問題を解決することができる。<b>【観察・ノート】</b></p> <p><b>[思判表]</b>数学的な着眼点と考察の対象を明らかにしながら、単元の学習を整理している。<b>【観察・ノート】</b></p> <p><b>[態度]</b>単元の学習を振り返り、価値づけたり、今後の学習に生かそうとしたりしている。<b>【観察・ノート】</b></p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>【発展】</b>巻末p.123の「おもしろ問題にチャレンジ」に取り組み、単元の学習内容を基に減法の筆算の仕方についての理解を深める。</li> </ul>			



単元名	どんな 計算に なるのかな？			教科書の ページ	上 p.36
配当時数	2 時間	活動時期	5 月下旬	学習指導要 領の内容	A(2)ア(ア)、イ(ア)

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
1	・2 位数の加減法を適用して問題を解決することを通して、演算を決定する能力を伸ばす。  上p.36	①問題文を読み、どのような式になるかを考えて解決する。	[知技]適切な立式をして、問題を解決することができる。【観察・ノート】 [態度]既習を活用して、どのような式で解決すればよいかを考えようとしている。【観察・ノート】
2		①絵を見て作問し、友だちと問題を出し合うなどして解決する。	

単元名	4. 長さを はかって あらわそう [長さの たんい]			教科書の ページ	上 p.37～49
配当時数	9 時間	活動時期	5 月下旬～ 6 月上旬	学習指導要 領の内容	C(1)ア(ア)(イ)、イ (ア)

単元の目標		長さの測定などの活動を通して、単位の意味と測定の原理を理解し、単位を用いて的確に表現する力を養うとともに、長さについて量の感覚を身につけ、今後の生活や学習に活用しようとする態度を養う。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	長さについて単位と測定の意味や、単位の関係、目盛りの仕組みを理解し、およその見当をつけながら量の感覚を身につけるとともに、身の回りのものの長さを測定したり、指定された長さの直線をひいたりすることができる。
	思考・判断・表現	普遍単位の必要性に気づき、身の回りのものの特徴を長さに着目してとらえ、目的に応じた単位で長さを的確に表現したり、比べたりしている。
	主体的に学習に 取り組む態度	身の回りにあるものの長さに関心をもち、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとしている。

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
(1) 長さの たんい 上p.37～45 6 時間			
1	[プロローグ]  上p.37～38	①p.37 の写真を提示し、3 本の鉛筆の長さの長短を予想し、長さを比較する方法を考えさせ、任意単位の比較では限界があることについての話し合いを通して、長さの測定や表し方について考えろという単元の課題を設定する。	
2	・ 普遍単位の必要性に気づき、長さを表す単位「センチメートル (cm)」を知り、その読み方や書き方を理解するとともに、簡易物差しによる測定活動を通して、測定の仕方を身につける。  上p.39～40	①普遍単位の必要性に気づき、長さの単位「センチメートル (cm)」を知る。 ②2cm は 1cm の 2 つ分、3cm は 3 つ分、…であることをおさえながら、1cm 目盛りの簡易物差しの目盛りの数を書き込む。 ③1cm 目盛りの簡易物差しで、いろいろなものの長さをはかる。 ④手や指で 10cm の長さをつくり、身の回りから 10cm の長さのものを見つける。	[ <b>知技</b> ]長さを表す単位「センチメートル (cm)」を知り、その読み方や書き方を理解するとともに、簡易物差しを使って、長さを cm の単位を用いて測定することができる。 <b>【観察・ノート】</b> [ <b>思判表</b> ]任意単位の限界や普遍単位の必要性に気づき、長さの表し方を考え、説明している。 <b>【観察・ノート】</b>
3	・ 1cm に満たない長さを表すのに新たな下位単位の必要性に気づき、長さを表す単位「ミリメートル (mm)」を知り、1cm=10mm の関係を理解する。  上p.41～42	①葉書の縦の長さをはかり、1cm 未満の長さの表し方を考える。 ②1cm を 10 等分した 1 つ分の長さを「1 ミリメートル」といい、「1mm」と書くことを知る。 ③1cm=10mm の関係を確認する。	[ <b>知技</b> ]長さを表す単位「ミリメートル (mm)」とその読み方や書き方、1cm=10mm の関係を理解している。 <b>【観察・ノート】</b> [ <b>思判表</b> ]身の回りにあるものの長さに着目し、1cm に満たない長さを表すのに、新たな下位単位の必要性に気づいている。 <b>【観察・ノート】</b>

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>物差しを目盛りの読み方を理解し、長さの測定の仕方に習熟する。</li> </ul> <p style="text-align: right;">上p.43</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①物差しを目盛りを読む練習をする。</li> <li>②物差しを使って、いろいろなものの長さをはかる。</li> </ul>	<p><b>[知技]</b>量感を基に見当をつけながら、長さをcmやmmの単位を用いて測定することができる。<b>【観察・ノート】</b></p> <p><b>[態度]</b>身の回りにあるものの長さに関心を持ち、測定しようとしている。<b>【観察・ノート】</b></p>
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>直線の意味を知り、同じ長さを、○cm○mmと、○mmの両方で表すことができる。</li> </ul> <p style="text-align: right;">上p.44～45</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①「直線」の意味を知る。</li> <li>②「センチメートル (cm)」、「ミリメートル (mm)」を用いて、直線の長さを表す。</li> </ul>	<p><b>[知技]</b>直線の意味を理解し、同じ長さを、○cm○mmと、○mmの両方で表すことができる。<b>【観察・ノート】</b></p>
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>指定された長さの直線を、物差しを使ってひくことができる。</li> </ul> <p style="text-align: right;">上p.45</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①物差しを用いた直線のひき方を練習する。</li> </ul>	<p><b>[知技]</b>指定された長さの直線を、物差しを使ってひくことができる。<b>【観察・ノート】</b></p>
<b>(2) 長さの計算 上p.46 1時間</b>			
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>長さの加減計算の仕方を理解する。</li> </ul> <p style="text-align: right;">上p.46</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①折れ線全体の長さや2本の折れ線の長さの差を、加減計算を適用して求める。</li> </ul>	<p><b>[知技]</b>長さの加法性や、同じ単位の数どうしを計算すればよいことを理解している。<b>【観察・ノート】</b></p>
<b>まとめ 上p.47～49 2時間</b>			
8	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元の学習の活用を通して事象を数理的にとらえ論理的に考察し、問題を解決する。</li> </ul> <p style="text-align: right;">上p.47</p>	<p>〔いかしてみよう〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①物差しを使って、いろいろなものの長さをはかり、測定結果を記録してまとめ、発表し合う。</li> <li>②「ますりんつうしん」を読み、長い直線のひき方について知り、算数への興味・関心を高める。</li> </ul>	<p><b>[思判表]</b>学習内容を適切に活用して筋道立てて考え、問題を解決している。<b>【観察・ノート】</b></p> <p><b>[態度]</b>学習内容を生活に生かそうとしている。<b>【観察・ノート】</b></p>
9	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返り価値づける。</li> </ul> <p style="text-align: right;">上p.48～49</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①「たしかめよう」に取り組む。</li> <li>②「つないでいこう 算数の目」に取り組む。</li> </ul>	<p><b>[知技]</b>基本的な問題を解決することができる。<b>【観察・ノート】</b></p> <p><b>[思判表]</b>数学的な着眼点と考察の対象を明らかにしながら、単元の学習を整理している。<b>【観察・ノート】</b></p> <p><b>[態度]</b>単元の学習を振り返り、価値づけたり、今後の学習に生かそうとしていたりしている。<b>【観察・ノート】</b></p>

単元名	5. 100 より 大きい 数を しらべよう [3 けたの 数]		教科書の ページ	上 p.50~65、124
配当時数	12 時間	活動時期	6 月上旬～下 旬	学習指導要 領の内容 A(1)ア(ア)(イ)(ウ)、 イ(ア) (2)ア(イ)、 イ(ア)

単元の目標		1000 までの数についてその意味や表し方を理解し、数の概念について理解を深め、図や式を用いて考える力を養うとともに、十進位取り記数法の仕組みを数学的表現を用いて考えた過程を振り返り、そのよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとする態度を養う。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	3 位数について、数の読み方や表し方、数の構成や大小、順序、数の相対的な大きさを理解し、数を書いたり読んだり、数や式の大小・相等関係を、不等号や等号を用いて表したりすることができる。
	思考・判断・表現	10 や 100 のまとまりに着目し、十進位取り記数法の仕組みを考え表現したり、数を相対的な大きさからとらえたりしている。
	主体的に学習に 取り組む態度	10 や 100 のまとまりに着目して数を調べた過程や結果を振り返り、数理的な処理のよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとしている。

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
(1) 数の あらわし方と しくみ 上p.50~59 8 時間			
1	・ 3 位数の読み方や表し方を理解する。 上p.50~53	①写真を見て、235 個のクリップの数を工夫して数える。 ②235 の数構成と命数法、記数法を知る。 ③クリップの数を数字で表す。 ④用語「百の位」を知る。	[ <b>知技</b> ]3 位数の読み方や表し方を理解し、3 位数を書いたり読んだりすることができる。【 <b>観察・ノート</b> 】 [ <b>態度</b> ]10 や 100 のまとまりに着目することのよさに気づき、クリップの数を工夫して数えようとしている。【 <b>観察・ノート</b> 】
2		①205 個のブロックの数を数字で表す。 ②棒や色紙の数を数字で表す。 ③3 位数を書いたり読んだりする。	
3	・ 数カードを並べて数を表すことを通して、3 位数の位取りの仕組みや数の構成を理解する。	①位取り板と数カードを使って、各位の数を読み取ったり、3 位数を数カードで表したりする。	[ <b>知技</b> ]3 位数の各位の数字はそれぞれ 100、10、1 の単位の個数を示し、10 以上の数が入らないことを理解し、3 位数の構成を等式で表すことができる。【 <b>観察・ノート</b> 】
4	上p.54~55	①3 位数の構成を基にした表し方（合成・分解）を練習する。 ②3 位数の構成を等式に表す。	
5	・ 230 などの数について、数のまとまりに着目して数の相対的な大きさをとらえることができる。 上p.56	①10 円玉が 14 枚でどれだけになるかを、10 を単位にして考える。 ②230 円は 10 円玉で何枚になるかを、10 を単位にして考える。	[ <b>思判表</b> ]数のまとまりに着目し、230 などの数を 10 を単位としてとらえている。【 <b>観察・ノート</b> 】
6	・ 数直線の読み取りを通して、3 位数の大小、順序を理解する。 上p.57	①数直線を見て指示された目盛りの数を読んだり、数直線上に数を表したりする。	[ <b>知技</b> ]数直線上に表された数を読んだり、数を数直線上に表したりすることができる。【 <b>観察・ノート</b> 】

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>1000 の構成、数の読み方、書き方及び 1000 付近の数を理解する。</li> </ul> <p style="text-align: right;">上p.58</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 図の●の数を工夫して数え、百を 10 こ集めた数を「千」といい、「1000」と書くことを知る。</li> </ul>	<p>[知技] 百を 10 こ集めた数を「千」といい、「1000」と書くこと、及び 1000 付近の数を理解している。</p> <p>【観察・ノート】</p>
8	<ul style="list-style-type: none"> <li>1000 までの数の構成を多面的にとらえ、数の見方を豊かにする。</li> </ul> <p style="text-align: right;">上p.59</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 780 のいろいろな見方を表現する。</li> <li>② 表現した見方を式に表す。</li> </ul>	<p>【思判表】数の構成に着目し、1000 までの数の多様な見方について考え、説明している。【観察・ノート】</p>
<b>(2) 何十、何百の 計算 上p.60～61 1 時間</b>			
9	<ul style="list-style-type: none"> <li>何十±何十、何百±何百などの計算の仕方を、数の構成に着目して考え、説明することができる。</li> </ul> <p style="text-align: right;">上p.60～61</p> <p>※本時の ②、③ の内容は、「スパイラルのため重複させる内容」であり、次学年で確実な習得をねらう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 10 枚の束の色紙の絵を見て、<math>50+70</math>、<math>120-30</math> の計算の仕方を考える。</li> <li>② 100 枚の束の色紙の絵を見て、<math>300+200</math>、<math>600-200</math> の計算の仕方を考える。</li> <li>③ 10 や 100 を単位にして数を単位としてとらえると、1 位数の加減計算に帰着できることをまとめる。</li> <li>④ 数の構成（何百といくつ）に基づいて、<math>500+30</math>、<math>530-30</math> などの計算の仕方を考える。</li> </ul>	<p>[知技] 何十±何十、何百±何百などの計算の仕方を理解し、その計算ができる。【観察・ノート】</p> <p>【思判表】何十±何十、何百±何百などの計算の仕方を、数の構成に着目して考え、説明している。</p> <p>【観察・ノート】</p>
<b>(3) 数の 大小 上p.62～63 2 時間</b>			
10	<ul style="list-style-type: none"> <li>不等号「<math>&gt;</math>」「<math>&lt;</math>」を知り、数の大小関係を式に表すことができる。</li> </ul> <p style="text-align: right;">上p.62</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 3 つの学校の児童数の大小を比較する。</li> <li>② 不等号「<math>&gt;</math>」「<math>&lt;</math>」を用いた式の表し方を知り、数の大小を不等号を用いて表す。</li> </ul>	<p>[知技] 不等号「<math>&gt;</math>」「<math>&lt;</math>」の意味を理解し、数の大小関係を不等号を用いて式に表すことができる。</p> <p>【観察・ノート】</p>
11	<ul style="list-style-type: none"> <li>数や式の大小、相等関係を不等号、等号を用いて式に表すことができる。</li> </ul> <p style="text-align: right;">上p.63</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 問題を読み、150 円で買える品物を調べる。</li> <li>② 数と式の大小、相等関係の表し方を知る。</li> </ul>	<p>[知技] 数や式の大小、相等関係を不等号、等号を用いて式に表すことができる。【観察・ノート】</p>
<b>まとめ 上p.64～65、124 1 時間</b>			
12	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返り価値づける。</li> </ul> <p style="text-align: right;">上p.64～65</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 「たしかめよう」に取り組む。</li> <li>② 「つないでいこう 算数の目」に取り組む。</li> </ul>	<p>[知技] 基本的な問題を解決することができる。【観察・ノート】</p> <p>【思判表】数学的な着眼点と考察の対象を明らかにしながら、単元の学習を整理している。【観察・ノート】</p> <p>【態度】単元の学習を振り返り、価値づけたり、今後の学習に生かそうとしたりしている。【観察・ノート】</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>【発展】 巻末 p.124 の「おもしろ問題にチャレンジ」に取り組み、単元の学習内容を基に 1000 までの数についての理解を深める。</li> </ul>			

単元名	6. 水の かさを はかって あらわそう [水の かさの たんい]			教科書の ページ	上 p.66～75
配当時数	8 時間	活動時期	6 月下旬～ 7 月上旬	学習指導要 領の内容	C(1)ア(ア)(イ)、イ (ア)

単元の目標		体積について、測定などの活動を通して、長さの学習を基に単位の意味と測定の原理を理解し、単位を用いて的確に表現する力を養うとともに、体積について量の感覚を身につけ、今後の生活や学習に活用しようとする態度を養う。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	体積について単位と測定の意味や、単位の関係を理解し、およその見当をつけながら量の感覚を身につけるとともに、体積の単位を適切に選択して身の回りにある入れ物に入る水の体積を測定することができる。
	思考・判断・表現	長さの学習を基に、普遍単位の必要性に気づき、身の回りにある入れ物の特徴をその中に入る水の体積に着目してとらえ、目的に応じた単位で体積を的確に表現したり、比べたりしている。
	主体的に学習に 取り組む態度	身の回りにある入れ物に入る水の体積に関心をもち、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとしている。

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
(1) 水の かさの たんい 上p.66～73 6 時間			
1	[プロローグ]  上p.66	①p.66 のコマ絵を提示し、2 人の比べ方についての話し合いを通して、任意単位の比較では限界があることに気づかせ、容器に入る水の体積の測定や表し方について考えるという単元の課題を設定する。 (所要時間は 10 分程度)	
	・ 普遍単位の必要性に気づき、体積を表す単位「デシリットル(dL)」を知り、その読み方や書き方を理解する。  上p.67～69	①プロローグの話し合いを受けて、同じ大きさのカップで 2 つの水筒に入る水の体積を比較する。 ②共通の任意単位で 2 つの水筒に入る水の体積を数値化する。 ③共通の任意単位であっても、比較の限界があることを知る。	[知技] 体積を表す単位「デシリットル(dL)」を知り、その読み方や書き方を理解するとともに、容器に入る水の体積を 1dL のますではかることができる。【観察・ノート】
2		①体積の単位「デシリットル(dL)」を知る。 ②水筒に入る水の体積を dL を使って表す。 ③身の回りの容器に入る水の体積を 1dL のますではかる。	[思判表] 長さの学習を基に、体積について任意単位の限界や普遍単位の必要性を考えている。【観察・ノート】
3	・ より大きな体積を表すのに上位単位の必要性に気づき、体積を表す単位「リットル(L)」について知り、1L=10dL の関係を理解する。  上p.69～70	①大きな紙パックに入る水の体積を調べる。 ②体積の単位「リットル(L)」を知り、1L=10dL の関係を確認する。	[知技] 体積を表す単位「リットル(L)」を知り、1L=10dL の関係を理解している。【観察・ノート】 [態度] 数の位取りの学習を基に、体積の上位単位を考えようとしている。【観察・ノート】

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・LやdLを用いた体積の表し方を理解する。</li> </ul> <p style="text-align: right;">上p.71</p>	①L、dLを用いて、体積を表す。	[ <b>知技</b> ]LやdLを用いた体積の表し方を理解している。 <b>【観察・ノート】</b>
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1dLより小さな体積を表すのに下位単位の必要性に気づき、体積を表す単位「ミリリットル(mL)」について知り、1L=1000mLの関係を理解する。</li> </ul> <p style="text-align: right;">上p.72</p>	①絵を見て、1dLより小さい体積の表し方に着目する。 ②体積の単位「ミリリットル(mL)」を知り、1L=1000mLの関係を確認する。	[ <b>知技</b> ]体積を表す単位「ミリリットル(mL)」を知り、1L=1000mLの関係を理解している。 <b>【観察・ノート】</b> [ <b>思判表</b> ]身の回りにあるものの体積に着目し、1dLより小さい体積を表すのに、新たな下位単位の必要性に気づいている。 <b>【観察・ノート】</b>
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体積の加減計算の仕方を理解する。</li> </ul> <p style="text-align: right;">上p.73</p>	①2つの水筒に入る水の体積の和や差を、加減計算を適用して求める。	[ <b>知技</b> ]体積の加法性や、同じ単位の数どうしを計算すればよいことを理解している。 <b>【観察・ノート】</b>
<b>まとめ 上p.74~75 2時間</b>			
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元の学習の活用を通して事象を数理的にとらえ論理的に考察し、問題を解決する。</li> </ul> <p style="text-align: right;">上p.74</p>	[いかしてみよう] ①身の回りから、LやmLの表示がされている容器を探す。	[ <b>思判表</b> ]学習内容を適切に活用して筋道立てて考え、問題を解決している。 <b>【観察・ノート】</b> [ <b>態度</b> ]学習内容を生活に生かそうとしている。 <b>【観察・ノート】</b>
8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返り価値づける。</li> </ul> <p style="text-align: right;">上p.74~75</p>	①「たしかめよう」に取り組む。 ②「つないでいこう 算数の目」に取り組む。	[ <b>知技</b> ]基本的な問題を解決することができる。 <b>【観察・ノート】</b> [ <b>思判表</b> ]数学的な着眼点と考察の対象を明らかにしながら、単元の学習を整理している。 <b>【観察・ノート】</b> [ <b>態度</b> ]単元の学習を振り返り、価値づけたり、今後の学習に生かそうとしていたりしている。 <b>【観察・ノート】</b>

単元名	7. 時計を生活に生かそう [時こくと時間]			教科書のページ	上 p.76～79、124
配当時数	2 時間	活動時期	7 月中旬	学習指導要領の内容	C(2)ア(ア)、イ(ア)

単元の目標		時刻と時間の概念、日、時、分の単位やそれらの関係を理解し、数学的表現を適切に用いて時刻や時間の求め方を考える力を養うとともに、それらを今後の生活や学習に活用しようとする態度を養う。
単元の観点別評価規準	知識・技能	時刻と時間の区別、及び日、時、分の単位やそれらの関係を理解し、時刻や時間を求めたり、表したりすることができる。
	思考・判断・表現	時間の単位に着目し、図などを用いて時刻と時間の求め方を考え、説明している。
	主体的に学習に取り組む態度	時刻や時間に関心をもち、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとしている。

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
(1) 時こくと時間 上p.76～79、124 2 時間			
1	・「時刻」と「時間」の意味や、時、分の関係を理解する。 上p.76～77	①絵を見て、各場面の時刻を読む。 ②図を見て、「時刻」と「時間」の意味の違いを考える。 ③簡単な場合の時刻や時間を求める。 ④1 時間=60 分であることを知る。	<b>【知技】</b> 時刻と時間の意味や、1 時間=60 分の関係を理解している。 <b>【観察・ノート】</b> <b>【思判表】</b> 時計盤や数直線を用いて、時刻と時間の求め方を考え、説明している。 <b>【観察・ノート】</b>
2	・「午前」と「午後」の意味や、日、時の関係を理解する。 上p.78～79	①絵を見て、同じ読み方の時刻が 1 日に 2 回あることに気づき、「午前」と「午後」の意味を知る。 ②午前、午後ともに 12 時間あることから、1 日=24 時間であることをおさえる。	<b>【知技】</b> 午前、午後の意味や、1 日=24 時間の関係を理解し、午前、午後を用いて時刻を表すことができる。 <b>【観察・ノート】</b> <b>【態度】</b> 時刻や時間に関心をもち、日常生活で生かそうとしている。 <b>【観察・ノート】</b>
・【発展】巻末 p.124 の「おもしろ問題にチャレンジ」に取り組み、単元の学習内容を基に時刻と時間についての理解を深める。			

単元名	おぼえているかな？			教科書のページ	上 p.80
配当時数	—	活動時期	7 月中旬	学習指導要領の内容	—

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
—	・既習内容の理解を確認する。 上p.80	①「おぼえているかな？」に取り組む。	<b>【知技】</b> 既習内容に関する問題を解決することができる。 <b>【観察・ノート】</b>



単元名	8. 計算のしかたをくふうしよう [計算のくふう]			教科書の ページ	上 p.81～85
配当時数	5 時間	活動時期	9 月上旬	学習指導要 領の内容	A(2)ア(ア)(ウ)、イ (ア) 内容の取扱い(2)(3)

単元の目標		加法の結合法則、簡単な加減の暗算の仕方を理解することを通して、加減計算についての理解を深め、計算の仕方を数や式をよく見て考える力を養うとともに、計算法則、数の見方や構成を活用して計算方法を考えた過程を振り返り、そのよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとする態度を養う。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	加法の結合法則や ( ) の使い方を理解するとともに、簡単な加減法の暗算ができる。
	思考・判断・表現	( )の中を 1 つの数とみて、式の意味を考え表現したり場面を式に表したりするとともに、3 つの数の加法計算について、数量の關係に着目し、結合法則などを基に工夫して計算している。
	主体的に学習に 取り組む態度	加減の計算方法について、計算法則、数の見方や構成を活用して考えた過程や結果を振り返り、数理的な処理のよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとしている。

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
(1) たし算の きまり 上p.81～83 2 時間			
1	・加法の結合法則と、( ) の 使い方を理解し、3 つの数の 加法計算ができる。 上p.81～83	①問題場面から数量の關係をとらえ、 立式する。 ②7+12+8 の計算の仕方を考える。 ③加法では、たす順序を変えても答え は同じになることをまとめる。 ④( ) の使い方を知り、それを使って 考えを式に表し、加法計算をする。	<b>[知技]</b> ( ) の使い方や 加法の結合法則を理解 し、それらを用いて、3 つ の数の加法計算ができ る。 <b>【観察・ノート】</b> <b>[態度]</b> 結合法則などを基 に、3 つの数の加法計算 の仕方を工夫しようとし ている。 <b>【観察・ノート】</b>
2	・3 つの数の加法計算の場面 を、( ) を用いた式に表し たり、( ) を用いた式から 考えを読み取ったりするこ とができる。 上p.83	①問題場面から数量關係をとらえ、 ( ) を用いて3 つの加法の式を立て る。 ②( ) を用いた式を読み、どのよう に考えたかを説明する。	<b>[思判表]</b> 3 つの数の加法 の場面を、数量の關係に 着目して( ) を用いた 式で表したり、( ) を用 いた式から考えを読み 取ったりしている。 <b>【観 察・ノート】</b>
(2) たし算と ひき算の くふう 上p.84 2 時間			
3	・簡単な加減法の暗算の仕方 を理解し、その計算ができ る。 上p.84	①26+7 の計算を加数分解や被加数分 解で暗算する。 ②加法の暗算の練習問題に取り組む。	<b>[知技]</b> 2 位数±1 位数の 暗算ができる。 <b>【観察・ ノート】</b> <b>[態度]</b> 数の見方や構成を 活用して、暗算の仕方 を考えようとしている。 <b>【観 察・ノート】</b>
4		①42-7 の計算を工夫して暗算する。 ②減法の暗算の練習問題に取り組む。	

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
まとめ 上p.85 1時間			
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返り価値づける。</li> </ul> <p style="text-align: right;">上p.85</p>	①「つないでいこう 算数の目」に取り組む。	<p><b>【思判表】</b>数学的な着眼点と考察の対象を明らかにしながら、単元の学習を整理している。<b>【観察・ノート】</b></p> <p><b>【態度】</b>単元の学習を振り返り、価値づけたり、今後の学習に生かそうとしたりしている。<b>【観察・ノート】</b></p>

単元名	9. ひっ算のしかたを 考えよう [たし算と ひき算の ひっ算]		教科書の ページ	上 p.86～99、125
配当時数	10 時間	活動時期	9 月上旬～下旬	学習指導要 領の内容 A(2)ア(ア)(イ)(ウ)、 イ(ア) 内容の取扱い(3)

単元の目標		既習の筆算を基に、2 位数の加法及びその逆の減法の筆算の仕方について理解し、筆算の仕方を図や式を用いて考える力を養うとともに、計算方法を数学的表現を用いて考えた過程を振り返り、そのよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとする態度を養う。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	2 位数の加法及びその逆の減法の計算について、1 位数などの基本的な計算を基にできることを知り、それらの筆算の仕方について理解し、筆算の手順を基に確実に計算することができる。
	思考・判断・表現	既習の筆算を基に、数の仕組みに着目し、2 位数の加法及びその逆の減法の筆算の仕方を、図や式などを用いて考え表現している。
	主体的に学習に取り組む態度	2、3 位数の加減の筆算の仕方について、図や式などを用いて考えた過程や結果を振り返り、数理的な処理のよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとしている。

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
(1) たし算の ひっ算 上p.86～89 2 時間			
1	[プロローグ]  上p.86	①p.86 の絵からメダルの数を求める計算の仕方についての話し合いを通して、既習の加減計算を振り返るとともに、数が大きくなった場合の加減計算の仕方を考えるという単元の課題を設定する。 (所要時間は 10 分程度)	
	・ 2 位数+2 位数=3 位数 (百の位への繰り上がりあり) の筆算の仕方を理解し、その計算ができる。  上p.87～88	①問題場面から数量の関係をとらえ、立式する。 ②83+46 の筆算の仕方を考える。 ③筆算の仕方をまとめる。 ④練習問題に取り組む。	[知技]2 位数の加法の計算が 1 位数などの計算を基にしてできることを理解している。【観察・ノート】 [態度]既習の加法との違いをとらえ、既習の筆算の仕方を基に、2 位数+2 位数=3 位数 (百の位への繰り上がりあり) の筆算の仕方を考えようとしている。【観察・ノート】

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
2	<p>・2位数+2位数=3位数(十、百の位への繰り上がりあり)や、2位数+1、2位数=3位数(百の位への波及的繰り上がりあり)の筆算の仕方を、数の見方や既習の加法筆算の仕方を基に考え、説明することができる。 上p.89</p>	<p>①76+58の筆算の仕方を考える。 ②筆算の仕方をまとめる。 ③46+57、93+8の筆算の仕方を考える。 ④練習問題に取り組む。</p>	<p>[<b>知技</b>]2位数+2位数=3位数(十、百の位への繰り上がりあり)や、2位数+1、2位数=3位数(百の位への波及的繰り上がりあり)の筆算の仕方を理解し、答えを求めることができる。【<b>観察・ノート</b>】 [<b>思判表</b>]既習を基に、2位数+2位数=3位数(十、百の位への繰り上がりあり)や、2位数+1、2位数=3位数(百の位への波及的繰り上がりあり)の筆算の仕方を、式や言葉などを用いて数の仕組み(十進位取り記数法)に着目して考え、説明している。【<b>観察・ノート</b>】</p>
(2) れんしゅう 上p.90 1時間			
3	<p>・学習内容を適用して問題を解決する。 上p.90</p>	<p>①「れんしゅう」に取り組む。</p>	<p>[<b>知技</b>]基本的な問題を解決することができる。【<b>観察・ノート</b>】</p>
(3) ひき算の ひっ算 上p.91~95 4時間			
4	<p>・3位数-2位数(百の位からの繰り下がりあり)の筆算の仕方を理解し、その計算ができる。 上p.91~92</p>	<p>①問題場面から数量の関係をとらえ、立式する。 ②129-53の筆算の仕方を考える。 ③筆算の仕方をまとめる。 ④練習問題に取り組む。</p>	<p>[<b>知技</b>]3位数-2位数の計算が1位数の計算を基にしてできることを理解している。【<b>観察・ノート</b>】 [<b>態度</b>]既習の減法との違いをとらえ、既習の筆算の仕方を基に、3位数-2位数(百の位からの繰り下がりあり)の筆算の仕方を考えようとしている。【<b>観察・ノート</b>】</p>

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
5	<p>・3位数－2位数（十、百の位からの繰り下がりあり）の筆算の仕方を、数の見方や既習の筆算の仕方を基に考え、説明することができる。</p> <p>上p.93</p>	<p>①146－89の筆算の仕方を考える。</p> <p>②筆算の仕方をまとめる。</p> <p>③練習問題に取り組む。</p>	<p>[知技]3位数－2位数（十、百の位からの繰り下がりあり）の筆算の仕方を理解し、答えを求めることができる。【観察・ノート】</p> <p>[思判表]既習を基に、3位数－2位数（十、百の位からの繰り下がりあり）の筆算の仕方を、式や言葉などを用いて数の仕組み（十進位取り記数法）に着目して考え、説明している。【観察・ノート】</p>
6	<p>・3位数－1、2位数（十、百の位からの波及的繰り下がりあり）の筆算の仕方を理解し、その計算ができる。</p> <p>上p.93～95</p>	<p>①102－65の筆算の仕方を考える。</p> <p>②筆算の仕方をまとめる。</p> <p>③練習問題に取り組む。</p>	<p>[知技]3位数－1、2位数（十、百の位からの波及的繰り下がりあり）の筆算の仕方を理解し、答えを求めることができる。【観察・ノート】</p> <p>[思判表]既習を基に、3位数－1、2位数（十、百の位からの波及的繰り下がりあり）の筆算の仕方を、式や言葉などを用いて数の仕組み（十進位取り記数法）に着目して考え、説明している。【観察・ノート】</p>
7		<p>①練習問題に取り組む。</p>	
<p>(4) 大きい数のひっ算 上p.96～97 2時間</p> <p>※本小単元の内容は、「スパイラルのため重複させる内容」であり、次学年で確実な習得をねらう。</p>			
8	<p>・3位数＋1、2位数（百の位への繰り上がりなし）や3位数－1、2位数（百の位からの繰り下がりなし）の筆算の仕方を理解し、その計算ができる。</p> <p>上p.96～97</p>	<p>①415＋32の筆算の仕方を、15＋32を基に考える。</p> <p>②345－21の筆算の仕方を、45－21を基に考える。</p> <p>③筆算の仕方をまとめる。</p>	<p>[知技]3位数±1、2位数の筆算の仕方が、1位数などの基本的な計算を基にしてできることを理解している。【観察・ノート】</p>
9		<p>①18＋345、526＋9の筆算の仕方を考える。</p> <p>②483－27、524－6の筆算の仕方を考える。</p> <p>③練習問題に取り組む。</p>	

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
まとめ 上p.98～99、125 1時間			
10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返り価値づける。</li> </ul> <p style="text-align: right;">上p.98～99</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①「たしかめよう」に取り組む。</li> <li>②「つないでいこう 算数の目」に取り組む。</li> </ul>	<p><b>【知技】</b>基本的な問題を解決することができる。<b>【観察・ノート】</b></p> <p><b>【思判表】</b>数学的な着眼点と考察の対象を明らかにしながら、単元の学習を整理している。<b>【観察・ノート】</b></p> <p><b>【態度】</b>単元の学習を振り返り、価値づけたり、今後の学習に生かそうとしたりしている。<b>【観察・ノート】</b></p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>【発展】</b> 巻末 p.125 の「おもしろ問題にチャレンジ」に取り組み、単元の学習内容を基に加法の筆算の仕方についての理解を深める。</li> </ul>			

単元名	10. さんかくやしかくの形をしらべよう [長方形と正方形]		教科書の ページ	上 p.100～112
配当時数	10 時間	活動時期	9 月下旬～ 10 月上旬	学習指導要 領の内容 B(1)ア(ア)(イ)、イ (ア) 内容の取扱い(5)

単元の目標		平面図形に進んで関わり、図形についての感覚を豊かにしながら、三角形、四角形などの構成要素をとらえそれらの意味や性質を理解し、図形を構成する要素に着目してとらえる力を養うとともに、それらを今後の生活や学習に活用しようとする態度を養う。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	三角形や四角形、直角、長方形、正方形、直角三角形の意味や性質を理解するとともに、紙を折って直角を作ったり、長方形や正方形などを作図したりすることができる。
	思考・判断・表現	辺や頂点など図形を構成する要素に着目し、三角形や四角形、長方形や正方形などの特徴を見だし、説明している。
	主体的に学習に 取り組む態度	身の回りにあるものの形の中から、三角形や四角形、長方形や正方形などを見つけ図形としてとらえ、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとしている。

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
(1) 三角形と 四角形 上p.100～103 3 時間			
1	[プロローグ]  上p.100	①p.129 のパズルを使い、p.100 に示されたいろいろな形を作り、それらの形についての話し合いを通して、平面図形に親しむとともに、三角や四角の形について調べるという単元の課題を設定する。 (所要時間は 30 分程度)	
2	・ 辺や頂点の数に着目して図形を分類する活動を通して、三角形、四角形の意味や性質を理解する。  上p.101～103	①辺や頂点の数に着目して、パズルの各ピースを仲間分けする。  ①「三角形」、「四角形」の意味や性質を理解する。 ②用語「辺」、「頂点」を知る。	[知技] 三角形、四角形の意味や性質を理解している。【観察・ノート】 [態度] 図形の辺や頂点の数に着目して、図形を分類しようとしている。【観察・ノート】
3	・ 図形を弁別する活動などを通して、三角形、四角形についての理解を確実にする。  上p.103	①三角形、四角形を弁別する。 ②ドットを直線で結んで、三角形や四角形などの基本図形を構成する。	[知技] 三角形や四角形を弁別したり、ドットを結んで作図したりすることができる。【観察・ノート】 [思判表] 三角形や四角形の弁別の仕方を、構成要素などを観点として考え、説明している。【観察・ノート】

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
<b>(2) 長方形と正方形 上p.104~109 5時間</b>			
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・直角の意味を知り、身の回りから直角を見つけることができる。</li> </ul> <p style="text-align: right;">上p.104~105</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①身の回りから四角形の形をしたものを探す。</li> <li>②紙を折って直角を作る。</li> <li>③操作を通して、平角を2等分した形を「直角」ということを知る。</li> <li>④身の回りから直角を探す。</li> </ul>	<p><b>[知技]</b> 直角の意味を知り、紙を折って直角を作ることができる。<b>【観察・ノート】</b></p> <p><b>[態度]</b> 身の回りにあるものの形の中から直角を見つけようとしている。<b>【観察・ノート】</b></p>
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長方形を構成要素に着目して見ることを通して、長方形の意味や性質を理解する。</li> </ul> <p style="text-align: right;">上p.105~106</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①不定形の紙を折って長方形を作る。</li> <li>②全てのかどが直角であることを確かめる。</li> <li>③「長方形」の意味や性質をまとめる。</li> <li>④長方形を弁別する。</li> </ul>	<p><b>[知技]</b> 長方形は4つのかどが直角になっている四角形で、対辺の長さが等しいことを理解している。<b>【観察・ノート】</b></p> <p><b>[思判表]</b> 図形の置かれた位置に関係なく、長方形の意味や性質を見だし、説明している。<b>【観察・ノート】</b></p>
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正方形を構成要素に着目して見ることを通して、正方形の意味や性質を理解する。</li> </ul> <p style="text-align: right;">上p.107</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①長方形の紙を折ってはみだした部分を切り取って正方形を作る。</li> <li>②全てのかどが直角で、全ての辺の長さが等しいことを確かめる。</li> <li>③「正方形」の意味や性質をまとめる。</li> <li>④正方形を弁別する。</li> </ul>	<p><b>[知技]</b> 正方形は4つのかどが直角で、4辺の長さが等しい四角形であることを理解している。<b>【観察・ノート】</b></p> <p><b>[思判表]</b> 図形の置かれた位置に関係なく、正方形の意味や性質を見だし、説明している。<b>【観察・ノート】</b></p>
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長方形、正方形を対角線で分割してできた三角形を、構成要素に着目して見ることを通して、直角三角形の意味や性質を理解する。</li> </ul> <p style="text-align: right;">上p.108</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①長方形、正方形を対角線で分割してできた形について考える。</li> <li>②「直角三角形」の意味や性質をまとめる。</li> </ul>	<p><b>[知技]</b> 直角三角形は1つのかどが直角になっている三角形であることを理解している。<b>【観察・ノート】</b></p>
8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・方眼を利用した長方形、正方形、直角三角形のかき方を、方眼の仕組みや図形の性質に着目して考え、作図することができる。</li> </ul> <p style="text-align: right;">上p.109</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①方眼を利用して、指定された長方形、正方形、直角三角形を作図する。</li> </ul>	<p><b>[知技]</b> 方眼を用いて、長方形、正方形、直角三角形を作図することができる。<b>【観察・ノート】</b></p> <p><b>[思判表]</b> 方眼を利用した長方形、正方形、直角三角形のかき方を、方眼の仕組みや図形の性質に着目して考え、作図している。<b>【観察・ノート】</b></p>



時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
まとめ 上p.110～112 2時間			
9	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元の学習の活用を通して事象を数理的にとらえ論理的に考察し、問題を解決する。</li> </ul> <p style="text-align: right;">上p.110</p>	<p>[いかしてみよう]</p> <p>①身の回りから長方形や正方形の形をしたものを探す。</p> <p>②合同な長方形や正方形、直角三角形などを使って敷き詰め模様を作る。</p>	<p><b>[思判表]</b>学習内容を適切に活用して筋道立てて考え、問題を解決している。</p> <p><b>【観察・ノート】</b></p> <p><b>[態度]</b>学習内容を生活に生かそうとしている。<b>【観察・ノート】</b></p>
10	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返り価値づける。</li> </ul> <p style="text-align: right;">上p.111～112</p>	<p>①「たしかめよう」に取り組む。</p> <p>②「つないでいこう 算数の目」に取り組む。</p>	<p><b>[知技]</b>基本的な問題を解決することができる。<b>【観察・ノート】</b></p> <p><b>[思判表]</b>数学的な着眼点と考察の対象を明らかにしながら、単元の学習を整理している。<b>【観察・ノート】</b></p> <p><b>[態度]</b>単元の学習を振り返り、価値づけたり、今後の学習に生かそうとしていたりしている。<b>【観察・ノート】</b></p>

単元名	11. 新しい 計算を 考えよう [かけ算(1)]		教科書の ページ	下 p.2～24
配当時数	17 時間	活動時期	10 月中旬～ 11 月下旬	学習指導要 領の内容 A(1)ア(エ)、イ(ア) (3)ア(ア)(イ)(ウ) (エ)、イ(ア)(イ) 内容の取扱い(4)

単元の目標		乗法の意味について理解し、計算の仕方を考えたり乗法に関して成り立つ性質を見いだしたりする力を養うとともに、計算方法などを数学的表現を用いて考えた過程を振り返り、そのよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとする態度を養う。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	乗法が用いられる場合や乗法九九について知り、乗法の意味や乗法に関して成り立つ性質（乗数が1ずつ増えるときの積の増え方や交換法則）を理解し、乗法が用いられる場面を絵や図、言葉や式で表したり、乗法九九（5、2、3、4の段）を構成し、確実に唱えたりすることができる。
	思考・判断・表現	数量の関係に着目し、累加の考えや乗数と積の関係などを基に、乗法九九の構成の仕方を考え表現している。
	主体的に学習に取り組む態度	数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理や乗法のよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとしている。

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
(1) かけ算 下p.2～12 7時間			
1	[プロローグ]  下p.2	①p.2の絵を提示し、①②の場面で人数の数えやすさについての話し合いを通して、新しい計算（かけ算）について考えるという単元の課題を設定する。 (所要時間は10分程度)	
	・「1つ分の数」と「いくつ分」をとらえ、「1つ分の数」と「いくつ分」の関係の場合に乗法が用いられることを知り、乗法の意味を理解する。	①絵を見て、それぞれの乗り物に乗っている子どもの人数を調べる。 ②総数が同じでも1台に乗っている人数が違うことから、「1つ分の数」と「いくつ分」をとらえる。	[思判表]数量の関係に着目し、数量を「1つ分の数」の「いくつ分」ととらえ、説明している。【観察・ノート】
2	下p.3～8	①絵やおはじきを使って、全部の数の求め方を言葉で説明する。 ② $5 \times 3 = 15$ の式の意味を知る。 ③「1つ分の数」と「いくつ分」が分かれば、全部の数を求められることをまとめる。 ④用語「かけ算」と記号「 $\times$ 」を知る。	[態度]全部の数を、「1つ分の数」の「いくつ分」ととらえるとよいことに気づき、数えようとしている。【観察・ノート】

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>乗法の場面を式やおはじきで表す活動を通して、乗法の意味の理解を確実にする。</li> </ul> <p style="text-align: right;">下p.8～9</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①3,4ページの絵を見て、乗り物に乗っている人数を乗法の式で表現する。</li> <li>②5,4のまとまりになっているものの写真を見て、乗法の式に表す。</li> </ul>	<p>[知技]乗法は、1つ分の数の大きさが決まっているときに、そのいくつかにあたる大きさを求める場合に用いられることを理解している。【観察・ノート】</p>
4		<ul style="list-style-type: none"> <li>①乗法の式から、その場面をおはじきで表す。</li> <li>②並んだおはじきを乗法の場面としてとらえ、乗法の式に表す。</li> </ul>	<p>[思判表]具体物のまとまりに着目し、乗法が用いられる場面を式やおはじきで表し説明している。【観察・ノート】</p>
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>乗法の答えは被乗数を乗数の数だけ累加して求められることを理解する。</li> </ul> <p style="text-align: right;">下p.10</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①問題場面から数量の関係をとりえ、立式や答えの求め方について考える。</li> <li>②乗法の答えは、被乗数を乗数の数だけ累加して求められることをまとめる。</li> </ul>	<p>[知技]乗法の答えは、被乗数を乗数の数だけ累加して求められることを理解している。【観察・ノート】</p>
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>倍の意味を知り、ある量の何倍かにあたる量を求めるときも乗法を用いることを理解する。</li> </ul> <p style="text-align: right;">下p.11</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①5cmの2つ分を、5cmの「2ばい」ということを知る。</li> <li>②5cmの2倍の長さを求めるときも、<math>5 \times 2</math>の乗法の式になることを知る。</li> </ul>	<p>[知技]倍の意味を知り、ある量の何倍かにあたる量を求めるときも乗法を用いることを理解している。【観察・ノート】</p>
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元の学習の活用を通して事象を数理的にとらえ論理的に考察し、問題を解決する。</li> </ul> <p style="text-align: right;">下p.12</p>	<p>[いかしてみよう]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①身の回りから乗法の式になる場面を見いだす。</li> <li>②どのような乗法の式になるかを、「1つ分の数」<math>\times</math>「いくつ分」=「全部の数」を基に説明する。</li> </ul>	<p>[思判表]学習内容を適切に活用して筋道立てて考え、問題を解決している。【観察・ノート】</p> <p>[態度]学習内容を生活に生かそうとしている。【観察・ノート】</p>
<b>(2) 5の段、2の段の九九 下p.13～16 4時間</b>			
8	<ul style="list-style-type: none"> <li>5の段の九九の構成の仕方を理解する。</li> </ul> <p style="text-align: right;">下p.13～14</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①お菓子が1箱に5個ずつ入っているときの1～4箱分の個数を求める。</li> <li>②累加や5とび、アレイ図などを用いて5の段の九九を構成する。</li> </ul>	<p>[知技]5の段の九九を構成の仕方を理解し、構成することができる。【観察・ノート】</p>

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
9	<p>・5の段の九九を確実に唱え、適用することができる。</p> <p style="text-align: right;">下p.14</p>	<p>①用語「九九」を知り、5の段の九九の答えは5ずつ増えていることを確認する。</p> <p>②5の段の九九を唱え、カードなどを使って練習をする。</p> <p>③5の段の九九を用いて問題を解決する。</p>	<p>[知技]5の段の九九を確実に唱えることができ、それを用いて問題を解決することができる。【観察・ノート】</p>
10	<p>・2の段の九九の構成の仕方を理解する。</p> <p style="text-align: right;">下p.15～16</p>	<p>①1皿にすしが2個ずつのっているときの1～5皿分の個数を求める。</p> <p>②累加や2とび、アレイ図などを用いて2の段の九九を構成する。</p>	<p>[知技]2の段の九九を構成の仕方を理解し、構成することができる。【観察・ノート】</p> <p>[思判表]5の段の九九の構成の仕方を基に、2の段の構成の仕方を考え、説明している。【観察・ノート】</p>
11	<p>・2の段の九九を確実に唱え、適用することができる。</p> <p style="text-align: right;">下p.16</p>	<p>①2の段の九九の答えは2ずつ増えていることを確認する。</p> <p>②2の段の九九を唱え、カードなどを使って練習をする。</p> <p>③2の段の九九を用いて問題を解決する。</p>	<p>[知技]2の段の九九を確実に唱えることができ、それを用いて問題を解決することができる。【観察・ノート】</p>
(3) 3の段、4の段の九九 下p.17～20 4時間			
12	<p>・3の段の九九の構成の仕方を理解する。</p> <p style="text-align: right;">下p.17～18</p>	<p>①1パックに3個ずつ入っているプリンの1～4パック分の個数を求める。</p> <p>②<math>3 \times 4</math>の答えにいくつたせば<math>3 \times 5</math>になるかを考える。</p> <p>③<math>3 \times 5</math>の答えに3をたせば<math>3 \times 6</math>になることを活用して、3の段の九九を構成する。</p> <p>④用語「かけられる数」「かける数」を知る。</p>	<p>[知技]3の段の九九を構成の仕方を理解し、構成することができる。【観察・ノート】</p> <p>[思判表]乗法について成り立つ性質を用いて、3の段の九九の構成の仕方を考え、説明している。【観察・ノート】</p>
13	<p>・3の段の九九を確実に唱え、適用することができる。</p> <p style="text-align: right;">下p.18</p>	<p>①3の段の九九の答えは、乗数が1増えると3増えることを確認する。</p> <p>②3の段の九九を唱え、カードなどを使って練習をする。</p> <p>③3の段の九九を用いて問題を解決する。</p>	<p>[知技]3の段の九九を確実に唱えることができ、それを用いて問題を解決することができる。【観察・ノート】</p>
14	<p>・4の段の九九の構成の仕方を理解する。</p> <p style="text-align: right;">下p.19～20</p>	<p>①1袋に4個ずつ入っているみかんの1～5袋分の個数を求める。</p> <p>②<math>4 \times 5</math>のかける数が1増えると、答えはいくつ増えているか確かめる。</p> <p>③4の段では、かける数が1増えると答えが4増えることを活用して、4の段の九九を構成する。</p>	<p>[知技]4の段の九九を構成の仕方を理解し、構成することができる。【観察・ノート】</p> <p>[思判表]乗法について成り立つ性質を用いて、4の段の九九の構成の仕方を考え、説明している。【観察・ノート】</p>

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
15	<ul style="list-style-type: none"> <li>4の段の九九を確実に唱え、適用することができる。</li> </ul> <p style="text-align: right;">下p.20</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①4の段の九九の答えは、乗数が1増えると4増えることを確認する。</li> <li>②4の段の九九を唱え、カードなどを使って練習をする。</li> <li>①4の段の九九を用いて問題を解決する。</li> </ul>	<p><b>[知技]</b>4の段の九九を確実に唱えることができ、それを用いて問題を解決することができる。<b>【観察・ノート】</b></p>
<p>まとめ 下p.21～24 2時間</p>			
16 ・ 17	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返り価値づける。</li> </ul> <p style="text-align: right;">下p.21～22、24</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①「たしかめよう」に取り組む。</li> <li>②「つないでいこう 算数の目」に取り組む。</li> </ul>	<p><b>[知技]</b>基本的な問題を解決することができる。<b>【観察・ノート】</b></p> <p><b>[思判表]</b>数学的な着眼点と考察の対象を明らかにしながら、単元の学習を整理している。<b>【観察・ノート】</b></p> <p><b>[態度]</b>単元の学習を振り返り、価値づけたり、今後の学習に生かそうとしていたりしている。<b>【観察・ノート】</b></p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>p.23のかけ算九九の表に、学習した九九を書きこむ。</li> <li>p.25の九九の練習を活用しながら、九九の習熟を図る。</li> <li>p.26の「ますりんつうしん」を読み、分配法則について関心をもつ。</li> </ul>			

単元名	12. 九九をつくろう [かけ算(2)]		教科書のページ	下 p.27～48
配当時数	15 時間	活動時期	11 月下旬～ 12 月中旬	学習指導要領の内容 A(1)ア(エ)、イ(ア) (3)ア(ア)(イ)(ウ)(エ) (オ)、イ(ア)(イ) 内容の取扱い(4)

単元の目標		乗法の意味について理解を深め、計算の仕方を考えたり乗法に関して成り立つ性質やきまりを見いだしたりする力を養うとともに、計算方法などを数学的表現を用いて考えた過程を振り返り、そのよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとする態度を養う。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	乗法九九について知り、乗法に関して成り立つ性質の理解を確実にするとともに、乗法が用いられる場面を絵や図、言葉、式で表したり、乗法九九(6、7、8、9、1の段)を構成し、確実に唱えたりすることができる。
	思考・判断・表現	数量の関係に着目し、乗法について成り立つ性質やきまりを用いて、乗法九九の構成の仕方を考え工夫し、表現している。
	主体的に学習に取り組む態度	数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理や、乗法について成り立つ性質やきまりを用いることのよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとしている。

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
(1) 6の段、7の段の九九 下p.27～30 4時間			
1	・6の段の九九の構成の仕方を理解する。 下p.27～28	①6の段の九九の構成の仕方について考える。 ②累加や乗数と積の関係など既習の考えを活用して、6の段の九九を構成する。	[態度]乗法について成り立つ性質やきまりを用いて九九を構成しようとしている。【観察・ノート】
2	・6の段の九九を確実に唱え、適用することができる。 下p.28	①6の段の九九を見直し、九九表やアレイ図などを基にして、交換法則や分配法則が成り立っていることを確認する。 ②6の段の九九を唱え、カードなどを使って練習する。 ③6の段の九九を用いて問題を解決する。	[知技]6の段の九九を確実に唱えることができ、それを用いて問題を解決することができる。【観察・ノート】 [思判表]6の段の九九を見直すことを通して、乗法について成り立つ性質やきまりを考え、説明している。【観察・ノート】
3	・7の段の九九の構成の仕方を理解する。 下p.29～30	①7の段の九九の構成の仕方について考える。 ②累加や積と乗数の関係に加え、交換法則や分配法則など既習の考えを活用して、7の段の九九を構成する。	[態度]乗法について成り立つ性質やきまりを用いて九九を構成しようとしている。【観察・ノート】

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
4	<p>・7の段の九九を確実に唱え、適用することができる。</p> <p style="text-align: right;">下p.30</p>	<p>①7の段の九九を見直し、九九表やアレイ図などを基にして、交換法則や分配法則が成り立っていることを確認する。</p> <p>②7の段の九九を唱え、カードなどを使って練習する。</p> <p>③7の段の九九を用いて問題を解決する。</p>	<p>[知技]7の段の九九を確実に唱えることができ、それを用いて問題を解決することができる。【観察・ノート】</p> <p>[思判表]7の段の九九を見直すことを通して、乗法について成り立つ性質やきまりを考え、説明している。【観察・ノート】</p>
(2) 8の段、9の段、1の段の九九 下p.31～36 5時間			
5	<p>・8の段の九九の構成の仕方を考え、説明することができる。</p> <p style="text-align: right;">下p.31</p>	<p>①8の段の九九の構成の仕方について考える。</p> <p>②既習の性質やきまりを活用して、いろいろな方法で8の段の九九を構成する。</p>	<p>[思判表]乗法について成り立つ性質やきまりを用いて、8の段の九九の構成の仕方を考え、説明している。【観察・ノート】</p>
6	<p>・8の段の九九を確実に唱え、適用することができる。</p> <p style="text-align: right;">下p.32</p>	<p>①8の段の九九を見直し、九九表やアレイ図などを基にして、交換法則や分配法則が成り立っていることを確認する。</p> <p>②8の段の九九を唱え、カードなどを使って練習する。</p> <p>③8の段の九九を用いて問題を解決する。</p>	<p>[知技]8の段の九九を確実に唱えることができ、それを用いて問題を解決することができる。【観察・ノート】</p>
7	<p>・9の段の九九の構成の仕方を考え、説明することができる。</p> <p style="text-align: right;">下p.33</p>	<p>①9の段の九九の構成の仕方について考える。</p> <p>②既習の性質やきまりを活用して、いろいろな方法で9の段の九九を構成する。</p>	<p>[思判表]乗法について成り立つ性質やきまりを用いて、9の段の九九の構成の仕方を考え、説明している。【観察・ノート】</p>
8	<p>・9の段の九九を確実に唱え、適用することができる。</p> <p style="text-align: right;">下p.34</p>	<p>①9の段の九九を見直し、九九表やアレイ図などを基にして、交換法則や分配法則が成り立っていることを確認する。</p> <p>②9の段の九九を唱えたり、カードを用いたりして練習をする。</p> <p>③9の段の九九を用いて問題を解決する。</p>	<p>[知技]9の段の九九を確実に唱えることができ、それを用いて問題を解決することができる。【観察・ノート】</p>
9	<p>・1の段の九九を構成し、乗法の意味の理解を確実にする。</p> <p style="text-align: right;">下p.35</p>	<p>①場面をとらえ、<math>1 \times 6</math>の式から乗法の意味を確かめる。</p> <p>②1の段の九九を唱える。</p> <p>③1の段の九九を見直し、九九表やアレイ図などを基にして、交換法則や分配法則が成り立っていることを確認する。</p>	<p>[知技]1の段の九九を構成することを通して、乗法の意味を理解している。【観察・ノート】</p>

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
	<ul style="list-style-type: none"> <li>九九を答えの大きい方から唱えたり、途中から唱えたり、交互に唱えたりする活動を通して、九九の習熟・定着を図る。</li> </ul> <p style="text-align: right;">下p.36</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①九九を、答えの大きい方から唱えたり、途中から唱えたり、交互に唱えたりする活動に取り組む。</li> <li>②「ますりんつうしん」を読み、九九の由来について関心をもつ。</li> </ul>	<p>[知技]九九を確実に唱えることができる。【観察・ノート】</p> <p>[態度]学習内容を適切に活用して、活動に取り組もうとしている。【観察・ノート】</p>
<b>(3) 九九の ひょうと きまり 下p.37～39 2時間</b>			
10	<ul style="list-style-type: none"> <li>九九表からきまりを見つける活動を通して、乗数と積の関係や、乗法の交換法則についての理解を深める。</li> </ul> <p style="text-align: right;">下p.37～38</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①九九表を見て、これまで九九の構成で用いた乗数と積の関係や、乗法の交換法則を確認する。</li> <li>②りくの吹き出しを読み、分配法則について調べる。</li> </ul>	<p>[態度]各段の九九を構成するときに用いた乗数と積の関係や、乗法の交換法則を、乗法の性質やきまりとしてまとめようとしている。【観察・ノート】</p>
11	<ul style="list-style-type: none"> <li>乗法の性質やきまりを用いて、簡単な場合の2位数と1位数の乗法の答えの求め方を考え、説明することができる。</li> </ul> <p style="text-align: right;">下p.39</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①九九表を基に、学習してきた性質やきまりを用いて、被乗数や乗数が2位数の乗法について答えの求め方を考える。</li> </ul>	<p>[思判表]乗数と積の関係や乗法の交換法則を用いて、簡単な場合の2位数と1位数の乗法の答えの求め方を考え、説明している。【観察・ノート】</p>
<b>(4) ばいと かけ算 下p.40 1時間</b>			
12	<ul style="list-style-type: none"> <li>同じ倍でも基準量が異なると比較量も異なることを、図や基準量の4倍の長さを求めながら考え、「倍」についての理解を深める。</li> </ul> <p style="text-align: right;">下p.40</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①㊲、㊲のテープの4倍の長さに色をぬる。</li> <li>②同じ4倍でも、4倍の長さがそれぞれ異なることを図で確認し、その理由を考える。</li> <li>③2cmの4倍、3cmの4倍の長さを、乗法を使って求める。</li> <li>④同じ倍でも、基準量が異なると比較量も異なることをまとめる。</li> </ul>	<p>[知技]同じ倍でも、基準量が異なると比較量も異なることを理解している。【観察・ノート】</p> <p>[思判表]図やそれぞれの4倍の長さに着目して、4倍の長さが異なる理由を考え、説明している。【観察・ノート】</p>
<b>(5) もんだい 下p.41～45 1時間</b>			
13	<p>[今日のふかい学び]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>乗法九九を総合的に活用して、ものの数の求め方を、乗法を用いて解決できるように工夫して考え、説明することができる。</li> </ul> <p style="text-align: right;">下p.41～45</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①チョコレートの数のいろいろな求め方を、図を基に考える。</li> <li>②自分の考えと他者の考えを比較し、共通点や相違点を説明する。</li> <li>③同じ数のまとまりに着目すれば、乗法を用いて解決できることをまとめる。</li> </ul>	<p>[思判表]ものの数の求め方を、乗法を用いて解決できるように工夫して考え、図などを使って説明している。【観察・ノート】</p> <p>[態度]主体的、対話的に学習に取り組むとともに、乗法九九を総合的に活用して問題解決したことを振り返り、価値づけている。【観察・ノート】</p>



時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
まとめ 下p.46～48 2時間			
14 ・ 15	・学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返り価値づける。  下p.46～48	①「たしかめよう」に取り組む。 ②「つないでいこう 算数の目」に取り組む。	<b>[知技]</b> 基本的な問題を解決することができる。 <b>【観察・ノート】</b> <b>[思判表]</b> 数学的な着眼点と考察の対象を明らかにしながら、単元の学習を整理している。 <b>【観察・ノート】</b> <b>[態度]</b> 単元の学習を振り返り、価値づけたり、今後の学習に生かそうとしたりしている。 <b>【観察・ノート】</b>

単元名	おぼえているかな？		教科書のページ	下 p.49
配当時数	—	活動時期	12月中旬	学習指導要領の内容 —

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
—	・既習内容の理解を確認する。  下p.49	①「おぼえているかな？」に取り組む。	<b>[知技]</b> 既習内容に関する問題を解決することができる。 <b>【観察・ノート】</b>

単元名	13. 1000 より 大きい 数を しらべよう [4けたの 数]		教科書の ページ	下 p.50～63
配当時数	11 時間	活動時期	1 月中旬～下旬	学習指導要 領の内容 A(1)ア(ア)(イ)(ウ) (オ)、イ(ア)(2)ア (イ)、イ(ア) 内容の取扱い(1)

単元の目標		10000 までの数についてその意味や表し方を理解し、数の概念について理解を深め、図や式を用いて考える力を養うとともに、十進位取り記数法の仕組みを数学的表現を用いて考えた過程を振り返り、そのよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとする態度を養う。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	4 位数について、数の読み方や表し方、数の構成や大小、順序、数の相対的な大きさを理解し、数を書いたり読んだり、数や式の大小・相等関係を、不等号や等号を用いて表したりすることができる。
	思考・判断・表現	数のまとまりに着目し、十進位取り記数法の仕組みを考え表現したり、数を相対的な大きさからとらえたりしている。
	主体的に学習に 取り組む態度	数のまとまりに着目して数を調べた過程や結果を振り返り、数理的な処理のよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとしている。

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
(1) 4 けたの 数 下p.50～60 9 時間			
1	・10000 未満の数の数え方と命数法、記数法、4 位数の位取りの仕組みを理解する。 下p.50～52	①絵を見て、2354 個の一円玉の数を工夫して数える。 ②2354 の数構成と命数法を知る。 ③数えた一円玉の数を数字で書き表す方法を考え、記数法を知る。 ④用語「千のくらい」を知る。	[態度]既習を基に、10 や 100 と同じように 1000 のまとまりをつくって数え、数字を使って表そうとしている。【観察・ノート】
2	・空位のある 4 位数の記数法を理解するとともに、4 位数の位取りの仕組みの理解を深める。 下p.53	①2054 を表す数カードを見て、その数を数字で表す。 ②4 位数を読んだり書いたりする。	[知技]4 位数を読んだり書いたりすることができる。【観察・ノート】 [思判表]2 位数、3 位数の仕組みを基に、4 位数の表し方を考え、説明している。【観察・ノート】
3	・数カードを並べて数を表すことを通して、10000 未満の数の構成について理解する。 下p.54～55	①位取り板と数カードを使って各位の数を読み取ったり、4 位数を数カードで表したりする。	[知技]4 位数の各位の数字はそれぞれ 1000、100、10、1 の単位の個数を示し、10 以上の数が入らないことを理解し、4 位数の構成を式で表すことができる。【観察・ノート】
4		①4 位数の構成を基にした表し方（合成・分解）を練習する。 ②4 位数の構成を、式を使って表す。	
5	・2300 などの数について、数のまとまりに着目して数の相対的な大きさをとらえることができる。 下p.56	①100 を 14 こ集めた数について考える。 ②2300 は 100 をいくつ集めた数かについて考える。 ③数構成（100 がいくつ）に基づいて、 $800+700$ や $800-600$ などの計算をする。	[思判表]数のまとまりに着目し、2300 などの数を 100 を単位としてとらえている。【観察・ノート】

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
6	<p>・数直線の読み取りを通して、4位数の大小、順序を理解する。</p> <p style="text-align: right;">下p.57</p>	<p>①数直線の1目盛りの大きさや、指示された目盛りの数を読んだり、数直線上に数を表したりする。</p>	<p>[<b>知技</b>]数直線上に表された数を読んだり、数を数直線上に表したりすることができる。【<b>観察・ノート</b>】</p> <p>[<b>思判表</b>]数の相対的な大きさの理解を基に、1目盛りを100(10)として数直線をとらえている。【<b>観察・ノート</b>】</p>
7	<p>・10000の構成、数の読み方、書き方及び10000付近の数を理解する。</p> <p style="text-align: right;">下p.58～59</p>	<p>①図の●を工夫して数え、千を10こ集めた数を「一万」といい、「10000」と書くことを知る。</p>	<p>[<b>知技</b>]千を10こ集めた数を「一万」といい、「10000」と書くこと、及び10000付近の数を理解している。【<b>観察・ノート</b>】</p> <p>[<b>思判表</b>]数直線の目盛りの大きさを、数の相対的な大きさを基にとらえ、説明している。【<b>観察・ノート</b>】</p>
8		<p>①数直線を見て指示された目盛りの数を読んだり、数直線上に数を表したりする。</p> <p>②4位数の大小を、不等号を使って表す。</p> <p>③数直線上で10000付近の数を読む。</p>	
9	<p>・10000までの数の構成を多面的にとらえ、数の見方を豊かにする。</p> <p style="text-align: right;">下p.60</p>	<p>①3800を多面的にとらえ、言葉や式で表す。</p> <p>②500とびで数を数えたり、大きい数から小さい数へ順に2とびで唱えたりする。</p>	<p>[<b>思判表</b>]数の構成に着目し、10000までの数の多様な見方について考え、説明している。【<b>観察・ノート</b>】</p>
<p>まとめ 下p.61～63 2時間</p>			
10	<p>・単元の学習の活用を通して事象を数理的にとらえ論理的に考察し、問題を解決する。</p> <p style="text-align: right;">下p.61</p>	<p>[いかしてみよう]</p> <p>①身の回りから数が使われている場面を探し、数には、ものの大きさを表しているものと、表していないものがあることを知る。</p>	<p>[<b>思判表</b>]学習内容を適切に活用して筋道立てて考え、問題を解決している。【<b>観察・ノート</b>】</p> <p>[<b>態度</b>]学習内容を生活に生かそうとしている。【<b>観察・ノート</b>】</p>
11	<p>・学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返り価値づける。</p> <p style="text-align: right;">下p.62～63</p>	<p>①「たしかめよう」に取り組む。</p> <p>②「つないでいこう 算数の目」に取り組む。</p>	<p>[<b>知技</b>]基本的な問題を解決することができる。【<b>観察・ノート</b>】</p> <p>[<b>思判表</b>]数学的な着眼点と考察の対象を明らかにしながら、単元の学習を整理している。【<b>観察・ノート</b>】</p> <p>[<b>態度</b>]単元の学習を振り返り、価値づけたり、今後の学習に生かそうとしていたりしている。【<b>観察・ノート</b>】</p>

単元名	14. 長い 長さをはかって あらわそう [長いものの長さのたんい]			教科書の ページ	下 p.64~71
配当時数	6 時間	活動時期	1 月下旬~ 2 月上旬	学習指導要 領の内容	C(1)ア(ア)(イ)、イ (ア)

単元の目標		長いものの長さの測定などの活動を通して、単位の意味と測定の原理を理解し、単位を用いて的確に表現する力を養うとともに、長さについて量の感覚を身につけ、今後の生活や学習に活用しようとする態度を養う。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	長さについて単位と測定の意味や、単位の関係を理解し、およその見当をつけながら量の感覚を身につけるとともに、長さの単位を適切に選択して身の回りのものの長さを測定し表現することができる。
	思考・判断・表現	上位単位の必要性に気づき、身の回りのものの特徴を長さに着目してとらえ、既習の学習を基に長いものの長さを表す単位について考えている。
	主体的に学習に 取り組む態度	身の回りにあるものの長さに関心をもち、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとしている。

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
(1) 長いものの長さのたんい 下p.64~68 3 時間			
1	[プロローグ]  下p.64  ・長さを表す単位「メートル(m)」を知り、1m=100cmの関係を理解する。  下p.65~66	①p.64の写真を提示し、「あた」と「つか」、「ひろ」の比較についての話し合いを通して、長いものの長さについて考えるという単元の課題を設定する。 (所要時間は10分程度)  ①両手を広げた長さを30cm物差しではかる。 ②120cmについて、上位単位の必要性を考える。 ③長さの単位「メートル(m)」を知り、1m=100cmの関係を確認する。	[知技]長さを表す単位「メートル(m)」と、1m=100cmの単位関係を理解している。【観察・ノート】 [思判表]上位単位の必要性に気づき、身の回りのものの特徴を長さに着目してとらえ、既習の学習を基に長いものの長さを表す単位について考えている。【観察・ノート】
2	・同じ長さを、○m○cmと、○cmの両方で表すことができる。  下p.67	①掲示板の横の長さを、加法を適用し、「メートル(m)」、「センチメートル(cm)」を用いて、長さを表す。	[知技]同じ長さを、○m○cmと、○cmの両方で表すことができる。【観察・ノート】
3	・測定活動を通して1mの量感を養う。  下p.68	①床から1mの高さだと思う体の位置を予想し、1m物差しを使って確かめるとともに、床から1mの高さにある体の位置を把握する。 ②1m物差しを使っていろいろなものの長さを、見当をつけてから測定する。 ③指定された長さについて、適切な単位を選ぶ。	[知技]1m物差しを使って、長さを正しく測定することができる。【観察・ノート】 [態度]量感を基に、見当をつけて長さを測定しようとしている。【観察・ノート】

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
まとめ 下p.69～71 3時間			
4 5	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元の学習の活用を通して事象を数理的にとらえ論理的に考察し、問題を解決する。</li> </ul> <p style="text-align: right;">下p.69</p>	<p>[いかしてみよう]</p> <p>①「テープものさし」を作成し、いろいろなものの長さを測定する。</p>	<p><b>[思判表]</b>学習内容を適切に活用して筋道立てて考え、問題を解決している。</p> <p><b>【観察・ノート】</b></p> <p><b>[態度]</b>学習内容を生活に生かそうとしている。<b>【観察・ノート】</b></p>
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返り価値づける。</li> </ul> <p style="text-align: right;">下p.70～71</p>	<p>①「たしかめよう」に取り組む。</p> <p>②「つないでいこう 算数の目」に取り組む。</p>	<p><b>[知技]</b>基本的な問題を解決することができる。<b>【観察・ノート】</b></p> <p><b>[思判表]</b>数学的な着眼点と考察の対象を明らかにしながら、単元の学習を整理している。<b>【観察・ノート】</b></p> <p><b>[態度]</b>単元の学習を振り返り、価値づけたり、今後の学習に生かそうしたりしている。<b>【観察・ノート】</b></p>

単元名	15. 図をつかって考えよう [たし算とひき算]		教科書の ページ	下 p.72~79、109
配当時数	5 時間	活動時期	2 月上旬~中 旬	学習指導要 領の内容
				A(2)ア(エ)、イ(ア) 内容の取扱い(2)

単元の目標		加法と減法の相互関係について理解し、数量の関係に着目し、場面を図に表して構造をとらえる力を養うとともに、加法と減法の相互関係を数学的表現を用いて考えた過程を振り返り、そのよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとする態度を養う。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	加法と減法の相互関係について理解し、加法と減法の相互関係を表した図を用いて、図や式に表し、問題を解決することができる。
	思考・判断・表現	数量の関係に着目し、場面を図に表して構造をとらえている。
	主体的に学習に 取り組む態度	加法と減法の相互関係に関心をもち、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとしている。

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
(1) たし算とひき算 下p.72~77 4時間			
1	[プロローグ]  下p.72	①p.72 の図を見て、□で隠れている色紙の枚数についての話し合いを通して数量の関係をとらえ、図を使って加法と減法の関係について考えるという単元の課題を設定する。 (所要時間は10分程度)	
	・加法逆の減法（未知数が後に出てくる）の問題解決を通して、加法と減法の相互関係についての理解を深める。  下p.73~74	①テープ図を基に、数量の関係をとらえる。 ②加法逆の減法の問題場面であることをとらえ、問題を解決する。	<b>[知技]</b> 加法と減法の相互関係を理解し、場面を表したテープ図を基に、加法逆の減法の問題を解決することができる。 <b>【観察・ノート】</b> <b>[態度]</b> 加法と減法の間隔を簡潔にとらえられるというテープ図のよさに気づき、場面を表そうとしている。 <b>【観察・ノート】</b>
2	・減法逆の加法（未知数が先に出てくる）の問題解決を通して、加法と減法の相互関係についての理解を深める。  下p.75	①テープ図を基に、数量の関係をとらえる。 ②減法逆の加法の問題場面であることをとらえ、問題を解決する。	<b>[知技]</b> 場面を表したテープ図を基に、減法逆の加法の問題を解決することができる。 <b>【観察・ノート】</b>
3	・加法逆の減法（未知数が先に出てくる）の問題解決を通して、加法と減法の相互関係についての理解を深める。  下p.76	①テープ図を完成させ、数量の関係をとらえる。 ②加法逆の減法の問題場面であることをとらえ、問題を解決する。	<b>[知技]</b> 場面を表したテープ図を基に、加法逆の減法の問題を解決することができる。 <b>【観察・ノート】</b>

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>減法逆の減法の問題づくりを通して、場面をテープ図や式に表現し、問題を解決する力を伸ばす。</li> </ul> <p style="text-align: right;">下p.77</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①減法逆の減法の問題づくりを行う。</li> <li>②つくった問題場面をテープ図に表し、問題を解決する。</li> </ul>	<p><b>[知技]</b>場面を表したテープ図を基に、減法逆の減法の問題を解決することができる。<b>【観察・ノート】</b></p> <p><b>[思判表]</b>数量の関係に着目し、場面を図に表して構造をとらえている。<b>【観察・ノート】</b></p>
<p>まとめ 下p.78～79、109 1時間</p>			
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返り価値づける。</li> </ul> <p style="text-align: right;">下p.78～79</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①「たしかめよう」に取り組む。</li> <li>②「つないでいこう 算数の目」に取り組む。</li> </ul>	<p><b>[知技]</b>基本的な問題を解決することができる。<b>【観察・ノート】</b></p> <p><b>[思判表]</b>数学的な着眼点と考察の対象を明らかにしながら、単元の学習を整理している。<b>【観察・ノート】</b></p> <p><b>[態度]</b>単元の学習を振り返り、価値づけたり、今後の学習に生かそうとしたりしている。<b>【観察・ノート】</b></p>
<p>・<b>【発展】</b> 巻末 p.109 の「おもしろ問題にチャレンジ」に取り組み、単元の学習内容を基に加法と減法の相互関係についての理解を深める。</p>			

単元名	16. 分けた 大きさの あらわし方を しらべよう [分数]		教科書の ページ	下 p.80~88
配当時数	5 時間	活動時期	2 月中旬~下旬	学習指導要 領の内容
				A(1)ア(カ)、イ(ア)

単元の目標		1/2 や 1/3 などの簡単な分数について知り、同じ大きさに分けるという操作に着目して分けた大きさの表し方を考える力や、2 つの数量の関係に着目して倍や分数の意味についてとらえる力を養うとともに、具体物や図などを用いて数学的に表現・処理した過程を振り返り、そのよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとする態度を養う。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	具体物を操作することなどによって、1/2 や 1/3 などの簡単な分数について知り、いくつかに分けた大きさの 1 つ分をつくりそれらの大きさを分数を使って表すことができる。
	思考・判断・表現	元の大きさと分けた大きさの関係や、分けた大きさは全て等しいことに着目して分数について考えたり、2 つの数量の関係に着目して倍や分数の意味についてとらえたりしている。
	主体的に学習に 取り組む態度	具体物や図などを用いて数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとしている。

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
(1) 分数 下p.80~85 3 時間			
1	〔プロローグ〕  下p.80  ・半分にした大きさを二分の一といい、1/2 と書くことを理解する。  下p.81~82	①p.80 の絵を見て、同じ大きさに分けた 1 つ分の表し方についての話し合いを通して、分けた大きさの数字を使った表し方を調べるといふ単元の課題を設定する。 (所要時間は 10 分程度)  ①正方形の紙を半分に折って切り分け、同じ形であることを確かめる。 ②二分の一の意味と書き方を知る。 ③元の大きさの 1/2 の 2 つ分は、元の大きさになることを確かめる。 ④長方形の紙を半分に折って切り、元の大きさの 1/2 を作る。 ⑤元の大きさの 1/2 かどうかを判定する。	<b>【知技】</b> 半分に分けた 1 つ分を、元の大きさの二分の一といい、1/2 と書くことを理解するとともに、紙を折って元の大きさの 1/2 を作ることができる。 <b>【観察・ノート】</b>
2	・四半分にした大きさを四分の一といい、1/4 と書くことや、3 つに分けた 1 つ分の大きさを三分の一といい、1/3 と書くことを理解する。  下p.83~84	①正方形の紙を半分の半分に折って切り分け、同じ形であることを確かめる。 ②四分の一の意味と書き方を知る。 ③用語「分数」を知る。 ④元の大きさの 1/4 の 4 つ分は、元の大きさになることを確かめる。 ⑤八分の一の意味と書き方を知る。 ⑥三分の一の意味と書き方を知る。 ⑦元の大きさの 1/3 の 3 つ分は、元の大きさになることを確かめる。 ⑧1/3 の大きさから、元の大きさを考える。	<b>【知技】</b> 1/4 や 1/3 の意味や書き表し方を理解するとともに、紙を折って元の大きさの 1/4 や 1/3 を作ることができる。 <b>【観察・ノート】</b> <b>【思判表】</b> 元の大きさと分けた大きさの関係や、分けた大きさは全て等しいことに着目し、分数について考えている。 <b>【観察・ノート】</b>



時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>分数の意味に着目して、分離量も等分することを分数で表せることを理解する。</li> </ul> <p style="text-align: right;">下p.85</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①8個を2人で同じ数に分けると1人4個になることを確認する。</li> <li>②2人で同じ数ずつ分けることを分数で表すことができるかを考える。</li> <li>③8個の1/2は4個、1/4は2個と表すことができることを知る。</li> <li>④12個の1/2や1/4の個数を考える。</li> </ul>	<p>[知技]分数の「等分する」という考えを用いて、分離量を等分することも分数で表せることを理解している。【観察・ノート】</p> <p>[思判表]等分することや分数の意味に着目して、分離量についても等分することを分数で表せるか考え、説明している。【観察・ノート】</p>
(2) ばいと 分数 下p.86~87 1時間			
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>2つの数量の関係に着目し、倍と分数の意味についてとらえることができる。</li> </ul> <p style="text-align: right;">下p. 86~87</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①2人のテープの長さを比べ、りくのテープの長さはあみのテープの長さの2倍、あみのテープの長さはりくのテープの長さの1/2であることを確かめる。</li> <li>②2つのテープの長さについて、一方は他方の2(4)倍、他方は一方の1/2(1/4)であることを確かめ、まとめる。</li> </ul>	<p>[思判表]2つの数量の関係に着目し、倍と分数の意味についてとらえている。【観察・ノート】</p> <p>[態度]2つの数量の関係に着目し、倍や分数の意味についてとらえようとしている。【観察・ノート】</p>
まとめ 下p.88 1時間			
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返り価値づける。</li> </ul> <p style="text-align: right;">下p.88</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①「つないでいこう 算数の目」に取り組む。</li> </ul>	<p>[知技]基本的な問題を解決することができる。【観察・ノート】</p> <p>[思判表]数学的な着眼点と考察の対象を明らかにしながら、単元の学習を整理している。【観察・ノート】</p> <p>[態度]単元の学習を振り返り、価値づけたり、今後の学習に生かそうとしていたりしている。【観察・ノート】</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>【発展】デジタルコンテンツの「おもしろ問題にチャレンジ」に取り組み、単元の学習内容を基に分数についての理解を深める。</li> </ul>			

単元名	おぼえているかな？		教科書のページ	下 p.89
配当時数	—	活動時期	2月下旬	—

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
—	<ul style="list-style-type: none"> <li>既習内容の理解を確認する。</li> </ul> <p style="text-align: right;">下p.89</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①「おぼえているかな？」に取り組む。</li> </ul>	<p>[知技]既習内容に関する問題を解決することができる。【観察・ノート】</p>

単元名	17. はこの 形を しらべよう [はこの 形]			教科書の ページ	下 p.90～95、109
配当時数	5 時間	活動時期	2 月下旬～ 3 月上旬	学習指導要 領の内容	B(1)

単元の目標		箱の形をしたものを観察したり作ったりする活動を通して、正方形や長方形の面で構成される箱の形をしたものについて理解し、図形を構成する要素に着目してとらえる力を養うとともに、それらを今後の生活や学習に活用しようとする態度を養う。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	箱の形をしたものの構成要素について理解し、正方形や長方形を組み合わせたり、ひごなどを用いたりして、箱の形を構成することができる。
	思考・判断・表現	面、辺、頂点などの図形を構成する要素に着目し、箱の形の特徴を見だし、説明している。
	主体的に学習に 取り組む態度	身の回りにあるものの形の中から、箱の形をしたものを見つけ、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとしている。

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
(1) はこの 形 下p.90～94 4 時間			
1	[プロローグ]  下p.90	①身の回りから探した箱の形についての話し合いを通して、図形への興味・関心を高め、箱の形について調べるといった単元の課題を設定する。 (所要時間は15分程度)	
2	・箱の形(直方体や立方体)に親しみ、立体と平面の関係を知り、その面の形や数をとらえることができる。 下p.91～92	①箱の作り方について考える。 ②箱の面を紙に写し取る。 ①用語「面」を知る。 ②紙に写し取った箱の面の形や数を調べる。	[知技]箱の形について、面は6つの長方形や正方形で、向かい合った面は合同であることなどを理解している。【観察・ノート】 [態度]箱の形に関心を持ち、その特徴について調べようとしている。【観察・ノート】
3	・組み立てた箱を考察することを通して、箱の形についての理解を深める。 下p.93	①写し取った面の形を切り取って、同じ長さの辺や向かい合う面などに着目してつなぎ合わせ方を考える。 ②箱を組み立てる。 ③6つの面をつないで組み立てても箱の形にならない場合について、その理由を考える。	[思判表]同じ長さの辺や向かい合う面の特徴や関係をとらえ、組み立て方を考え、説明している。【観察・ノート】
4	・直方体や立方体の辺、頂点の数などの構成要素を理解する。 下p.94	①箱の形の骨格模型を作るために必要なひご(辺)の長さや本数と粘土玉(頂点)の数を調べる。 ②1つの頂点には、違う長さの辺が1本ずつ集まることをとらえる。 ③立方体の辺の長さや本数、頂点の数を調べる。	[知技]箱の形(直方体、立方体)には、面が6つ、頂点が8つ、辺が12あることなど、図形の構成要素を理解している。【観察・ノート】

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
まとめ 下p.95、109 1時間			
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返り価値づける。</li> </ul> <p style="text-align: right;">下p. 95</p>	①「つないでいこう 算数の目」に取り組む。	<p><b>[知技]</b> 基本的な問題を解決することができる。<b>【観察・ノート】</b></p> <p><b>[思判表]</b> 数学的な着眼点と考察の対象を明らかにしながら、単元の学習を整理している。<b>【観察・ノート】</b></p> <p><b>[態度]</b> 単元の学習を振り返り、価値づけたり、今後の学習に生かそうとしたりしている。<b>【観察・ノート】</b></p>
<p>・【発展】 巻末 p.109 の「おもしろ問題にチャレンジ」に取り組み、単元の学習内容を基に箱の形についての理解を深める。</p>			

単元名	計算ピラミッド		教科書のページ	下 p.96～97
配当時数	2 時間	活動時期	3 月上旬	学習指導要領の内容 A(2)

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>既習内容を総合的に適用して問題を解決することを通して、問題解決の能力を伸ばす。</li> </ul> <p style="text-align: right;">下p. 96～97</p>	①計算ピラミッドに取り組み、既習の加減計算の練習をする。	<p><b>[思判表]</b> ピラミッドの下のますに同じ数を入れたときのきまりについて考え、説明している。<b>【観察・ノート】</b></p> <p><b>[態度]</b> 意欲的に計算ピラミッドに取り組もうとしている。<b>【観察・ノート】</b></p>
2		<p>①p.96 上の問題に取り組み、下のますに同じ数を入れたときのきまりを見つける。</p> <p>②p.97 上の問題で見つけたきまりが、ほかの数でも成り立つかどうか確かめる。</p>	

単元名	2年の ふくしゅう		教科書のページ	下 p.98～102
配当時数	4 時間	活動時期	3 月上旬	学習指導要領の内容 A～D

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
1 2 4	<ul style="list-style-type: none"> <li>既習内容の理解を確認する。</li> </ul> <p style="text-align: right;">下p.98～102</p>	①問題を解決する。	<p><b>[知技]</b> 既習内容について解決の仕方を理解し、問題を解決することができる。<b>【観察・ノート】</b></p>